

種目【国語】

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>新編 新しい国語</p>	<p>2</p> <p>東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字の読み方が初めて出てくるページの下欄に載せられており、確認がしやすい。 ○「漢字を使おう」のコーナーが各学年単元の間に入っており、既習の漢字を使った復習がしやすくなっている。 ○漢字に関する教材には練習問題が用意され、QR コードを読み取ることで取り組めるようになっている。 ○各領域の学習の中で「知識及び技能」に示された事項について必要に応じて取り立てて学習する場面を設けている。 ○螺旋的・反復的な学習を通じて言語感覚を豊かにする構成になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに示された「言葉の力」を身に付けるために取り組むと効果的な内容が単元の最後に載せられている。「読む」単元では、「言葉の力」を身に付けるために注意したり注目したりして読むとよい視点が書かれている。 ○「見通す」「取り組む」「ふり返る」順に学習を進めていくことで身に付けていく「言葉の力」がわかる。 ○「言葉相談室」では、伝えたい内容に合わせた言葉として相応しい言葉を考える活動を通して、実際に生活の中で使うことができるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の教科書のはじめに、年間の学習を見通して身に付けていこうとする「言葉の力」を明らかにしており、学年末には振り返る場面が設けられている。 ○各単元において書き方の手本となる例が示されており、参考にしながら学習を進めることができる。 ○教科書と連動して、導入に使う動画やアニメーションなどが QR コンテンツとして用意されており、動画をきっかけに話し合いが活発になる工夫がされている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習に関わる本を紹介した「こんな本もいっしょに」や、学年ごとに「〇学年の本だな」などの読書活動に親しむための内容が随所に掲載されている。 ○年間を通して設定されている「本は友達」では、本を読む楽しさを共有できる活動が取り入れられている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめに写真や絵を大きく入れている。 ○巻末にある「言葉の力のつながり」で全学年との学習のつながりについて整理して示されている。 ○「デジタルノートの作り方」で調べたことや考えたことを図や表にしてまとめる思考ツールの活用について示されている。 ○QR コードを読み取ることで視聴できる資料が豊富であり、学習の中で活用できるよう随所に配置されている。 	
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに着目するポイントが書かれていて、学習を進める際の助けとなっている。 ○目次の次に「国語の学習の進め方」が示してあり、各単元で出てくる「言葉の力」が身に付くように学習を進める上で意識することが段階ごとに説明されている。 ○「国語のノートの作り方」では、1時間の学習の流れに沿って、どのようなことをノートにまとめていけばよいのか例を示している。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全体を通して単元ごとに「見通す」「取り組む」「ふり返る」ことで、「言葉の力」が身に付くように学習の流れが計画されている。 ○6年生の「インターネットの投稿を読み比べよう」や、「古典芸能への招待状」の中に紹介されているスーパー歌舞伎など、現代に対応した内容を取り入れて、親近感をもって学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○「学習で使う言葉」や「言葉の広場」で学習の助けとなる言葉がまとめられている。 	

種目【国語】

書名 項目	ひろがる言葉 小学国語	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元扉に示された「学習のめあて」から、「本文」、「学習のてびき」に示された「学習のめあて」と「ふり返ろう」、「ここが大事」までが、重点指導事項に焦点化された一つのまとまった学びとしてつながっている。 ○ 「読むこと」教材の手引きが、①たしかめよう②くわしくよもう③まとめよう④つたえあおう、の4ステップ構造の学習内容になっているため、学習の進め方が分かりやすい。下段には、思考ツールや図解、子供の反応例や、キャラクターの言葉が示されており、上段の学習活動に役立て、生かすことができる。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では日常生活に則した多様な言語活動を取り入れ、他者と協働・協調して、生きてはたらく言葉の力を育めるよう工夫がされている。必要な情報を取り出したり、情報と情報の関係を整理したりできるよう、体系的なまとめのページが新設されている。 ○ 言葉について考える教材を各学年に設定し、言語生活に生かせるような配慮がされている。豊富な写真やイラストを用いているため、親しみやすい紙面で、低学年から伝統的な言語文化を味わうことができる。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で、一年間の学習の見通しをもてるようにしてある。巻末で学習したことを振り返る機会を設け、その後の学習への意欲を高められるようにしてある。 ○ 巻末付録の「楽しく読もう」「言葉の道具箱」「漢字を学ぼう」に、語彙の拡充や、話型・文型のまとめなど、国語の学習を支えるツールや読み物があり、語彙感覚を養う工夫がされている。 <p>＜読書に親しむ態度を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「本を読もう」のコーナーで、子供の興味を引きつける表紙とあらすじを、全ての紹介図書に掲載されている。紹介冊数が現行の教科書の2冊から3冊に増え、教科書12冊で約540冊と充実が図られている。 ○ 上巻で「情報読書」、下巻で「交流読書」教材を設定し、年間を通して本にふれる機会が保障され、読書の日常化を促す工夫がされている。 ○ 夏休み前の学習時期に「ひろがる読書の世界」のコーナーが新設されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生の教科書は特に楽しく親しみやすい紙面になっている。見開きごとに見やすく構成された教材が扱われている。 ○ 汎用的知識は巻末に一覧で示されており、本文と巻末付録を行き来し、学習に役立てることができる。 ○ 「まなびリンク」のQRコードを読み取ると、充実した情報を取り出すことができる。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙面・デジタル画面上ともに見やすく、読みやすいユニバーサルデザインに配慮したオリジナルフォントを用いている。活字は教科書体を用いているが、巻末の漢字一覧には書写教科書の筆者の硬筆体字を使用し、学習上の関連が図られている。 ○ 上位学年の漢字であっても適宜振り仮名を使用して熟語で表し、違和感のある交ぜ書きを避けている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供一人一人の実態に応じた学びを可能にするために、学びが「見える」・「分かる」・「生きる」ように工夫が随所に施されている。 ○ 全学年上下巻の二分冊になっている。(教科書の軽量化、新しい教科書に出会う喜び、付録ページの充実化、ゆとりをもった紙面) ○ 表紙・裏表紙とも本を読む子供たちが描かれており、色鮮やかで魅力的な世界観のイラストが想像力をかき立てると期待できる。 	

種目【国語】

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>国語</h1>	<p>38</p> <p>光村図書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の単元では、各単元に「たいせつ」という項目を設け、そこで身につけた国語の力を簡条書きで示している。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、どの学習活動に重点を置くのかが明示されており、児童にも分かるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元における重点箇所では、自分で考えるための課題が設けられている。また、重点箇所の下段では、チェックボックス形式で大事なことをまとめており、友達と助言し合う際の観点にすると深い学びにつながるよう工夫されている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、どんな係がクラスにあったら学校生活が楽しくなるかを話し合ったり（3年）、デジタル機器と付き合うために気になることを調べて提案する文章を書いたり（6年）するなど、深い思考へ導くための題材が多く示されている。 ○「情報の扱い方に関する事項」に特化した「情報」教材を年間2か所に位置づけ、情報を捉えたり整理したりする方法を学べるように工夫している。また、巻末に「図を使って考えよう」というページを設け、思考ツールを使って情報を整理する方法や、整理した情報を伝えるときの表現などを確かめることができるにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の学習ページでは、「問いをもとう」と「目標（もくひょう）」という項目を設けており、一人一人の問いを引き出し、その問いが目標につながるような工夫がされている。また、「学習課題」と「言語活動の手順や観点」の2段組で構成されており、個別最適な学びの実現のために、選択課題を設けたり考えるための観点を複数示したりしている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、「見通しをもとう」の欄が設けられており、どのように進めていけばよいかが一目で分かる工夫がある。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の単元では、「この本、読もう」のコーナーが設けられており、単元の学習と関連させて、様々な角度から本が紹介されている。 ○読書単元「本は友達」を年間2か所設け、日常的に学校図書館を利用し、読書によって生活を豊かにするような工夫がある。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストは、情報が混在しないように、境目がはっきり分かるように工夫されている。 ○多くの単元や教材にQRコードが付いており、文章を読む際の参考になる資料や、一人一人が問いをもつための動画、前学年までに学んだ言葉を振り返ることができる資料等を視聴できる。 	
<p>表 記</p> <p>・</p> <p>表 現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読みやすさへの配慮から、自社作成の教科書体やUD書体を使用している。 ○「たいせつ」など重要なポイントは、目につきやすい色で囲んで他の情報と区別しやすくしている。 ○語のまとまりが捉えやすいように、低学年では、単語や文節の途中で改行しないよう配慮がなされている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら問いを立て、学習を進めていく子供を育てるために、学びの流れを視覚化し、自分で学習を進められるような構成、工夫がなされている。 ○子供が興味をもったり疑問をもったりできるような教材・題材を多く掲載している。 ○自分の学習を振り返ったり、他の単元や教科等に活用したりできるよう、学習活動が整理されている。 	

種目【書写】

書名 項目	新編 新しい書写	2 東京書籍
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○正しい字形を身につけることができるよう、整った文字と誤りやすい文字の具体例を示し、比較することで定着できるようにしている。 ○手本となるページに穂先を朱書きした文字、解説のページには、穂先の朱書きと筆の動きを分割して写真掲載し、確認しながら学習できるようにしている。 ○基本の点画を学ぶために、3年で基本点画の名前を記入する学習や「横画」「縦画」「おれ」「曲がり」「そり」、4年生で「字間」「筆順と字形」「画の方向」「組み立て方：土地・竹笛」を扱っている。3年のまとめ「水」、4年生のまとめ「手話」となっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元の中で、対話的な学習を促す設問を提示し、書き方や工夫について考えたり、話し合わせたりして「書写のかぎ」につながるよう工夫している。 ○生活に活用できる書写力を育成するため、「生活に広げよう」等において、絵日記や生活作文、観察記録、ポスター等、他教科と連動させた言語活動を取り入れている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○系統性を意識した学習のため、表紙裏インデックスで書写の学習要素を色分けして示している。 ○学習課題に関連した文字を硬筆で練習させ、自己評価できるようにしている。 ○「漢字のまとめ」や「点画の名前」の学習でクイズ形式やユーモアのあるイラストを取り入れ、親しみを感じて取り組めるよう工夫している。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるよう、①硬筆「書写のかぎ」②毛筆③硬筆（別の文字）④振り返るという展開で構成している。 ○硬筆・毛筆を効果的に関連させた指導ができるよう、教材の配分を考慮し、適切な順で単元を配列している。 </p> <p> <各教科や日常生活との関わり> ○他教科との関連を意識づけるため、国語や他教科の学習と連動している教材には、関連マークをつけている。 ○日常生活での横書きの機会が増加していることを考慮し、横書きの単元（1年）や横書きの教材（2年生以上の他教科の学習や生活の中の事例）を設定している。 </p>	
資 料	<p> ○読書指導の充実を図るため、「こんな本もいっしょに」で、教材に関連する図書を紹介している。 ○穂先の位置を確認できるよう、朱書きの教材に筆の動きの写真も掲載されている。 ○教材手本（左ページ）に朱書きの手本も掲載し、課題と解説（右ページ）に比較する例題や課題に関連する文字の硬筆での確認、振り返りができるような構成になっている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○手書きの硬筆文字の字形や書き方に準拠し、国語・書写の学習に適した教科書体で示している。 ○学習に集中し、重要な情報に着目できるよう、レイアウトや色使いに配慮している。 ○考えさせる設問を色分けし、「書写のかぎ」でポイントをまとめている。 ○豊富な QR コンテンツで用具の準備・扱い方・片付け方、教材の運筆を示し、繰り返し見て学ぶことができるよう、工夫している。 </p>	
総 括	<p> ○各学年の表紙裏に系統性を示したインデックスと書写の学習への必要性を示したマンガ、巻頭に「書写の学び方」を掲載し、主体的に取り組めるよう工夫している。 ○各学年の巻頭に「しせい・持ち方」「点画の名前」を提示し、書写の基礎的な要素を確認できるようにしている。 ○課題に合わせた具体例を掲載し、比較することで考え、文字を正しく整えて書く書写の力をつけ、「書写のかぎ」で正しい知識を確認させている。 ○「生活に広げよう」で目的に応じて文字を書く学習を取り入れ、「文字といっしょに」で日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成できるようにしている。 ○各学年の巻末に、これまでの学年で学習した内容「書写のかぎ」をまとめ、全体を通して、復習と確認ができるようになっている。 </p>	

種目【書写】

書名 項目	小学 書写	17 教育出版
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「書く力」を身につけさせるため、よい姿勢・よい鉛筆の持ち方を示し、定着、習慣化できるようにし、1、2年生の教科書巻末には、運筆力が向上するよう水書用紙を添付している。 ○基本の筆使いを身につけるため、穂先の通り道を朱書きで示し、「ここが大切」で字形を整えて書くコツをわかりやすく解説している。 ○基本の点画を学ぶために、3年生でカタカナの文字（曲がりとおれ：「ビル」）や4年生で二文字（文字の組み立て：「土地」「竹笛」「木材」「岩山」等）の課題を設定し、偏や冠等、書き方が変わる文字の学習もできるようになっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○伝え合う楽しさを知るため、手紙・はがき等、書く活動を各学年の学習活動に合わせて系統的に扱っている。 ○相手に伝える表現力を高めるため、「レッツ・トライ」で「わかりやすく書き表す」ねらいに焦点化した教材を取り入れ、書き方の手順や用具や色の工夫、目的に合った書く速さ等、具体的に示している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自ら学ぶ意欲を持たせるため、1年間の学びを「目次」で可視化している。 ○1時間の見通しを「学習の進め方」を提示し、「めあて」「考えよう」「ここが大切」「学習の始めと終わり」「ふり返ろう」が色分けされており、主体的に学べるようになっている。 ○児童が文字感覚を自然に育むことができるよう、中心線を示した手本（右ページ）と学習のポイントや文字の活用、自己評価欄（左ページ）で構成している。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○主教材で文字の原理・原則を理解した後、同じ原則に当てはまる文字で応用できるよう、言葉を書く活動ができる構成になっている。 ○各課題の学習の始め（ためし書き）と終わり（まとめ書き）で確認できるようにしている。 </p> <p> <各教科や日常生活との関わり> ○身につけた書写の力を学習活動で生かせるよう、各学年の学習内容に合わせ、各教科と連携した教材を提示している。 ○「文字の世界」で日常生活の中での文字を示し、お礼の手紙等、実践的な内容を取り入れている。 </p>	
資 料	<p> ○伝統的な文字文化や多様性への理解のため、日本の「書く」文化や世界の手書き文字を紹介している。 ○児童の理解を深めるため、デジタル教材（指導者用、学習者用）を充実させ、紙媒体とデジタルでの学習ができるよう工夫している。 ○教材手本と課題や解説のページを分け、各教材の間に、学習風景の写真や参考資料を提示、選択課題を設けて取り組ませる等、興味関心を高めている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○小学校書写と中学校書写で同じ図版を用い、既習事項と新しい学習を積み重ねることができるようにしている。 ○学びやすさに配慮し、手書き文字に近いフォントを用い、色覚を踏まえた配色や人権に関する言葉、左利き用の持ち方を掲載している。 ○QRコードは、動画、資料、ワークシートがあり、視覚と音声で理解できるよう工夫している。 </p>	
総 括	<p> ○表紙裏に日常生活の手書き文字に係るカラー写真を掲載し、毛筆学習の意義をマンガにしたり、表紙のキャラクターをアニメーションにしたりする等、児童が興味をひく工夫が随所にある。 ○目的に応じて書くために話し合っている場面を実際の写真で具体的に示す等、活動のイメージを広げ、取り組みやすくしている。 ○他教科や日常生活に生かすため、「理科ノート」や「ポスター」等、授業の進め方の具体例に合わせて書き方のひみつが掲載されるなど、資料が豊富で、学習のテキストとしても活用できる。 ○6年生では、6年間で学習したことの振り返りができるような構成となっている。 ○各学年の巻末に「手紙の書き方」を設定し、発達段階に合わせて学べるようにしている。 </p>	

種目【書写】

書名 項目	書写	38 光村図書
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○基礎・基本を確認できるよう、2年生以上の全教材に「たいせつ」を設け、的確な解説をしている。教材の文字だけでなく、他の文字に対しても活用できる書の基本の説明になっている。 ○毛筆学習における穂先の向きや筆圧、点画のつながりなどの筆使いが把握できるよう、朱墨を用いた手本、筆圧（1～3）、穂先のイラストでわかりやすくしている。 ○基本の点画を学ぶために、4年生前半までの課題はねらいに合わせて一文字ずつ（偏：「林」、冠「雲」）になっている。3年生のまとめは、「水玉」、4年生のまとめは、「大地」となっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「思考力・判断力・表現力」を養えるよう、各教材の「学習の進め方」に「考えよう」を提示し、「なぞとき」で、文字の原理や原則を考えたり話し合ったりできるようにしている。 ○「文字の組み立て方」や「用紙に合った文字の大きさ」等、具体例を示すことで、比較し、よりよい書き方を考え、学べるようにしている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○児童が見通しをもって学習できるよう、各教材に「学習の進め方」を提示し、「書写の学習場面」を写真で掲載している。 ○知識・技能の定着や自己の成長を確認できるよう、学習目標に即した自己評価ができるよう、確認欄を設けている。 ○児童の主体的学習の助けとなるよう、学習のポイントを示す「たいせつ」やヒントを与えるキャラクターなど紙面を構成する要素の役割を明確にしている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○毛筆での学習を硬筆へ生かせるよう、教材内に毛筆学習後のねらいに関連する文字の硬筆練習を設けている。 </p> <p> <各教科や日常生活との関わり> ○他教科との関連が図れるよう、「書写広げたい」のコーナーを設け、豊富に提案されており、書写の学習を自分や社会と結びつけて深く理解し、日常に生かせるよう、「SDGsブック」や町の防災マップを作る「町の安全を伝えよう」などの工夫がある。 ○書写での学習を日常生活に生かせるよう、伝統的な言葉や行事に関連する教材を設けたり、6年生には、小学校での学習内容をまとめた「書写ブック」を掲載したりしている。 </p>	
資 料	<p> ○学習の参考となるよう、教科書紙面にQRコードがあり、運筆・体操動画やアニメーション等を確認できるようになっている。 ○左利きの児童のため、左手で書く写真の掲載やQRコードの確認ができるようになっている。 ○教材手本（左ページ）、課題と解説（右ページ）と各課題が見開きで扱いやすく、穂先の動きを朱墨、穂先の方向をイラスト、筆圧を1，2，3段階の数字で表記し、偏や冠になる文字を朱書き（元の形）と重ねる等、違いが分かりやすい。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○発達段階に応じて分かりやすい文章で表現している。 ○キャラクターを交えた図やイラストが適所に配置され、学習内容が整理されている。 ○毛筆・硬筆とも学習指導要領の「学年別漢字配当表」に準拠しつつ、小学生に学びやすい文字が採用され、教科書体活字との整合性も図られている。 </p>	
総 括	<p> ○低・中・高の各学年段階で求められる「書く力」を確実に身につけられるよう、基礎的基本的な知識・技能を発達段階に即して系統的に位置づけ、習得と活用を螺旋的に高められる課題が設定されており、ねらいに即した教材で、手本となる文字の形が整っている。 ○硬筆・毛筆学習の入門期における基本を学ぶため、1年巻頭「しよしやすたーとぶっく」で文字の意識、姿勢、鉛筆の持ち方を示し、3年巻頭「毛筆スタートブック」で用具の準備や姿勢、鉛筆と毛筆の違い等を示し、児童や保護者にも分かりやすく丁寧に解説している。 ○学年のまとめとして、巻末に各課題で示した「たいせつ」を整理して1年間の学びを確認できるようにし、6年生の巻末には「書写ブック」としての資料が提示されている。 </p>	

種目【社会】

書名 項目	<h1>新しい社会</h1>	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習上重要な見開きのキーワードを「ことば」として提示し、学習内容の確実な習得に役立てるとともに、学習のまとめで活用できるようにしている。 ○随所に「まなび方コーナー」を設け、具体的な学習の技能や方法を各学年の発達段階をふまえて、ていねいに示し、学習技能を系統的に習得できるようにしている。 ○「学習計画ワークシート」と「まとめるワークシート」を全小単元にQRコンテンツで収載し、学習の見通しと学習の整理が着実にできるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのページ下部に「まなびのポイント」を示し、話し合う視点や考えてまとめる視点を示し、児童の対話的な学習を支援している。 ○「まとめる」場面では、文書でまとめる、発表する、話し合うなどの言語活動を重視し、習得した知識を定着させるとともに、多様な表現活動で、思考力・判断力・表現力を育成できるようにしている。 ○「いかに」場面では、今日的な教育課題にかかわる箇所を中心に、学習したことをいかして社会的な事柄に参画したり、提案発信したりする学習場面が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストの他、導入動画やインタビュー動画などの学習内容に関連した多数の動画をQRコンテンツで収載し、児童の学習意欲を高められるようにしている。 ○「まとめる」場面で、学習したことを振り返り、問題を解決する過程をわかりやすく示し、児童の深い学びにつながるようになっている。 <p><学習の問題を追及・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習の流れ（「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかに」）を各学年の最初の単元で「学習の進め方」として示し、アニメキャラクターが目印の「見方・考え方」を働かせることで、深い学びが実現できるようにしている。 ○全単元に、単元のめあて、小単元の学習問題、本時のめあて（各見開きの左ページ側注）を構造的に紙面に明示し、問題解決的な学習を効果的に進められるようにしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○社会に生きる様々な人々の姿に学ぶため、取材した「〇〇さんの話」を随所に設け、様々な仕事や社会活動にかかわる人を取り上げ、共感的に人の生き方を学ぶことができるようにしている。 ○ワイド版の紙面や折り込みページを使用し、迫力あるイラストや写真を掲載している。また、QRコンテンツで、教科書の内容や資料と関連づけた動的資料を提示している。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の冒頭に、「この教科書のつくりを見てみよう」があり、教科書の見開き紙面の基本的なつくりをわかりやすく示している。右ページには、「学び方コーナー」や「ひろげる」のもくじなども示し、各学年の冒頭で教科書のつくりを確認することができる。 ○文字と資料のバランスがよく、見やすく、わかりやすい紙面構成になっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○3、4年が1巻（合本）。5年が上下巻。6年は「政治・国際編」、「歴史編」となっている。重量負担の配慮があり、ページ数が6冊全体でR2年度より5%減となっている。 ○各学年に設けられた「選択教材」や、「ひろげる」のページにおいて、学習指導要領に選択的に例示されている事例を柔軟に扱えるように教材が用意されている。 	

種目【社会】

書名 項目	<h1>小学社会</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びリンク」に地図記号、都道府県、世界の国々、歴史人物のクイズが入っており、各学年の知識習得に工夫がされている。 ○「キーワード」を單元ごとに取り上げ、単元のまとめで「単元全てのキーワード」を掲載し、「社会的な事象を調べまとめる技能」の向上が図れるように工夫されている。 ○「学びのてびき」を掲載し、資料の読み取り方（技能）を具体的に示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の最終時に必ず「まとめ」を設け、文章化・話し合う・発表するなどの対話的な活動を例示し、深い学びをとおして児童の思考・判断・表現力の育成をめざしている。 ○資料に付随している「ふきだし」や「学びのてびき」により、考える手がかりを児童に与え、「社会的な見方・考え方」を働かせることができるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○6年生「歴史と人々の生活」の近現代の写真資料が人工着色されている。着色することにより、当時の出来事を身近にとらえ、撮影場所の様子をより深く理解し、興味をもつことができるように工夫されている。 ○QRコードの「学びリンク」により各学年の社会科の学習内容のつながりが可視化できる。また、他教科ともリンクしているため教科横断的な調べ学習を行うこともできる。 ○毎時間の最後に、「次につなげよう」のコーナーがあり、次時の学習内容の見通しと学習意欲をもたせる工夫が見られる。 <p><学習問題を追及・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方を「つかむ、調べる、まとめる、つなげる」とし、「つなげる」では、既習事項をもとに、今後の社会について児童が考え表現できるように工夫されている。 ○「つかむ」の場面では、児童が感じた疑問や問いをふきだして表し、事象に興味関心をもたせ、学習者が主体的に小単元の学習問題を設定できるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○児童に気付かせたい箇所を拡大し、焦点化された資料が多く取り上げられており、分かりやすく提示されている。 ○事象の流れが簡潔で分かりやすくなるように、要素で分けたり、段階的に示したりしている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に社会科学習の進め方と社会科の学習の広げ方、前学年の学習の振り返りが書かれている。また、巻末には各学年の振り返りと「知識」内容がまとめられている。 ○単元の学習課題と一授業の学習課題を明確に提示していくことで「社会的な見方・考え方」を働かせた学びができるよう工夫されている。 ○色覚の個人差を問わず、より多くの人が見やすい配色になっている。図版などは、色・形・模様でも判別できるように配置されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体の流れが「課題を追及したり解決したりする活動」を中心に据えた作りになっている。 ○「デジタルコンテンツ」が他学年の教科書ともリンクしているため、振り返りや多面的・多角的な考察が行いやすくなっている。 	

種目【社会】

書名 項目	<h1>小学社会</h1>	116 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;"> 日 文 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○その単元を学ぶうえで不可欠な用語を「キーワードコーナー」として解説している。 ○「教科書デジタルコンテンツ」の掲載が多く、動画やワークシートを活用して知識・技能が習得できるように工夫されている。 ○単元の最終ページにまとめの例示が出ており、個やグループで単元内容や調査内容をまとめる技能を向上させることが期待できる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象の見方・考え方を働かせて学習の問題を追究・解決する手だてとなる「見方・考え方コーナー」では、調べ考えるための視点や方法を「空間」、「時間」、「関係」の3項目で示し、社会的事象の見方・考え方が養われるようにしている。 ○児童に考えさせたい部分や話し合いの中心にさせたい部分が例示されおり、調べたり考えたりする手がかりとしている。また、自分の考えと比較することもできる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」では、地域独自の行事や人々の生き生きとした写真が掲載され、地域の生活等に興味をもたせる工夫がされている。 ○単元ごとに「SDGs」との関連を明確にするコーナーが設けられており、社会的事象の特色や意味を多角的に考えることができるように工夫がなされている。また、社会へのかかわり方を選択・判断する力を養う工夫もされている。 <p><学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の教科書巻頭には、児童の素朴な疑問から学習問題をつかみ、追究することで考えを深め合い、解決していく社会科の問題解決的な学習の進め方を、図を用いて、わかりやすく提示している。また、教科書の使い方のページも設けられている。 ○左ページ脚注に問題解決的な学習課程に対応した「脚注インデックス」があり、問題の発見・追究・解決・ほりさげとそのページの学習で意識することが示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○小単元の導入ページでは、インパクトのある写真やイラストを中心に構成されている。 ○資料の読み取りや本文と資料を関連させた読み取りが容易になるよう、レイアウトに配慮している。また、グラフや表が読み取りやすく、最新情報が反映されている。 ○社会の変化に応じた現代的な様々な諸課題に取り組むことができるよう、各学年で教材を充実させている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を3つの役割（①学習活動…どのような学習活動をするのか、②学習内容…疑問を解決するのに必要な資料的内容、③友達の発言…自分の考えと比較等）に分け、どこに何が書かれているか、背景に色付けをしたりして容易にわかるようしている。 ○社会的事象の変遷や違い、相互の関連の分かる表記が多くみられる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年ともに1巻（合本）構成となっている。1年間の学習の見通しをもつことができ、学年を通した振り返りの活動も行いやすいようになっている。 ○全ての学年で主体的・対話的で深い学びを実現する「深め合い」活動を取り入れ、アニメで紹介することで、児童の活動意欲を高めている。 ○調べ学習や学習内容をまとめるための流れが書かれており、一定水準の技能や思考力、判断力、表現力を身に付けさせられることが期待できる。 	

種目【地図】

書名 項目	新編 新しい地図帳	2 東京書籍
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○地図記号、方位、縮尺、地形表現、土地利用といった基礎的・基本的な地図の見方を巻頭で解説している。また地球儀の使い方を大きな写真でわかりやすく説明している。 ○同社の社会科の教科書とリンクしたドローン動画は、児童にとって生きた知識となる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○土地の高さによる色分け（等高断裁表現）と、市街地、田、畑、果樹園などの土地の使われ方による色分け（土地利用表現）を組み合わせた地図表現で、地域の特徴を捉えやすくし、社会的な見方・考え方を働かせられる地図となっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○日本と世界の一般図に続く、資料地図（主題図）のページでは、多様なテーマの主題図を大きく表現し、ページごとに読み取りやすく、学習のねらいを明確にして児童が理解しやすいようにしている。 ○「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」のコーナーには、児童が取り組める70の問いと作業を設定し、地図学習を深められるようにしている。 </p> <p> <地図・資料の特徴> ○QR コンテンツから、都道府県地図や白地図が簡単に使えるようになっている。 ○「都道府県クイズ」や「都道府県かるた」など楽しみながら学べるクイズコンテンツが用意されている。 ○日本領土を示すページでは、東西南北端の島々の写真を掲載し、（北の端の島として択捉島の写真が掲載）尖閣諸島・竹島の写真は、それぞれの地域の地図（別ページ）に掲載している。北海道地方の地図には、北方4島の写真掲載がない。 </p>	
資 料	<p> ○中部地方のうち、独自に結びつきの強い北陸地方を別建てで示している。 ○主な歴史の舞台（青い枠囲み）、世界遺産、ラムサール条約や世界ジオパークの登録地などについて、個別の記号を設けて注目させるようにしている。 ○各地の伝統工芸品や名産品、郷土の偉人に関する記念館などを多数取り上げ、郷土に対する誇りと愛情をはぐくむようにしている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○日本の自然や気候、地形の特徴がとらえやすく表記され、わかりやすい。 ○地図中の文字や記号は大きく、字体（フォント）も丸ゴシック系の親しみやすいものになっている。地名表記は白い縁取りがなされている。 ○「産業の記号」の表記が豊富で地域を代表する産業と特産物がイラストからわかる。 ○地名はすべてに、その他の文章などは3年生配当以上の漢字にふりがなをつけている。 </p>	
総 括	<p> ○QR コンテンツに「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑がんばりシート」を収載し、到達度を確認しながら意欲的に取り組めるようにしている。 ○歴史的事象と関係ある国や場所が、その時代の地図等を用いて表している。 ○巻末で日本全体の災害地図を掲載し、位置や空間の広がりや災害の要因（地形や気候）に注目できるように工夫されている。 </p>	

種目【地図】

書名 項目	楽しく学ぶ 小学生の地図帳	46 帝国書院
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○巻頭14ページにわたり、地図の概念、方位や地図記号などの地図のやくそく、記号、凡例や索引等、地図帳の見方や使い方をスモールステップで丁寧に解説している。 ○地名の漢字は、各自治体が定めた正式な字を採用し、すべての地名に漢字と対応する位置にふりがなが付されており、正しい知識を身につけられるようになっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○地図の見方を示唆したり、活用を促したりする男の子と女の子のキャラクターによって、児童自らが着目したり、考えたりできるようにしている。 ○土地の高さによる色分け（等高断裁表現）と、市街地、田、畑、果樹園などの土地の使われ方による色分け（土地利用表現）を組み合わせた地図表現で、地域の特徴を捉えやすくし、社会的な見方・考え方を働かせられる地図となっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「地図マスターへの道」のコーナーを設け、地図に対する興味・関心をもたせている。巻末には、取り組みを記録するページを設け、自学自習を進めるなかで、児童の主体的に学ぶ力をはぐくむことができるようにしている。 </p> <p> <地図・資料の特徴> ○学習を支援するQRコードには、アニメーションによる解説やクイズ、動画やVR画像など、デジタル端末を活用した主体的な学びにつながるコンテンツを豊富に収録している。 ○QRコンテンツには、161の統計資料があり、大方の調べ学習に対応できる豊富な量となっている。 ○日本の領土を示すページでは、東西南北端の島々の写真と日本固有の領土として尖閣諸島、竹島、北方領土の写真資料が同一ページに掲載されている。 </p>	
資 料	<p> ○伝統と文化を尊重する態度をはぐくめるように、地図中の歴史地名や世界遺産を、それぞれ青色と緑色の反転文字で示して目立たせている。また、日本の歴史と世界文化遺産を取り上げたページを設けている。 ○持続可能な社会を実現を意識し、SDGsの特設ページを設けている。また、全編を通して、SDGsに関連する写真や図表にSDGsのアイコンを付記している。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○全体的に薄明るい色使いがされており、土地利用と文字が鮮明で見やすい。 ○「環境の記号」が付記され、土地特有の動植物が赤線で囲まれて表記されている。 ○「標高に陰影」が有り、山地の多さや標高の高い地域が分かりやすい。 ○山や川の名前が鮮明に表記され、見つけやすい工夫がされている。 </p>	
総 括	<p> ○デジタル端末を活用し学習を深めることができる豊富なコンテンツが多くあり、地図帳の活用を高めることが期待される。 ○防災意識が高まるように、日本列島で起きた自然災害を学ぶページを設けている。自然災害に備え、自らの身を守るために何ができるかを考える、「防災マップ」の作り方が示されている。 </p>	

種目【算数】

書名 項目	<h1>新しい算数</h1>	$\frac{2}{\text{東 書}}$
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書紙面にある練習問題を原則 QR コンテンツ化し、正誤判定、ヒントや解説、正誤の履歴表示などの機能をもたせ、学習状況を的確に把握しながら、個に応じた繰り返し効率的に練習問題に取り組むことが可能で、知識・技能をより確実に身に付けることができるようになっている。 ○原則として全単元末に「ほじゅうの問題」を用意し、2段階レベルの問題で構成され、一人一人の児童の学習状況に幅広く柔軟に対応しつつ、さらなる習熟が必要な場合に教科書を使ってできるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時のまとめでは、問題解決の過程で働かせる数学的な見方・考え方を可視化し価値づけたり、既習との統合や発展的な考察を示唆したりしている。 ○練り上げの過程では、自分の考えと他者の考えの比較・検討ができるようにし、多様な考えに触れ、自分の考えをよりよいものにできるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元冒頭の「単元プロローグ」では、学校や日常生活との関連を重視した場面設定、既習の振り返りなどを通して、解決すべき課題を明確にしてから単元の学習を始められるように工夫されている。 ○巻頭の「学びのとびら」では、算数の学び方が明示され、学習内容を生活や学習に活用する態度が育つように工夫されている。また、学習の途中や単元末の「いかしてみよう」「つないでいこう算数の目」「考える力をのばそう」「算数で読みとこう」、巻末の「おもしろもんだいにチャレンジ」等では、日常生活の場面で学びをいかす経験ができ、生きて働く知識・技能の定着や算数の有用性が実感できるように工夫されている。 <p><数学的活動を充実させるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程で特に働かせたい数学的な見方・考え方に「🔍」を付し、児童が数学的な見方・考え方やその働きを意識しやすくなるように配慮している。 ○まとめの後に「それなら」と示し、学習したことを発展的に考え、数学的活動が続くように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○巻頭には、問題解決的な学習の取り組み方やノートの書き方の例が示され、巻末に、学習に必要な既習の内容がまとめられている。 ○「QR コンテンツ」が充実しており、随所に二次元コードの掲載がある。単元導入の動画や解決への手立て、作図の仕方などを見ることができ、定着や習熟が図れるよう工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○文節改行を徹底し、文章が読みやすく学習に取り組めるように工夫している。 ○ページ番号は他の数字との区別から、白抜き文字を用いたデザインとなっている。2学年以降、ページ番号は上部に記載され、二次元コードは下部に記載されている。 ○使用する色数を減らす、淡い配色を基本とする、記号の形を基本図形に寄せたシンプルなものにするなど、学習に集中しやすい紙面になっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的に考える資質・能力を育成するために数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動をベースとした構成になっている。 ○授業の展開や児童の思考の流れを想定し、発達段階に応じて、問題解決のための図や発問、吹き出しなどを設け、児童が考える部分を残した記述となっている。 ○紙面に表現された複数の考えや対話を読み取りながら、協働的に筋道を立てて考察したり表現したりする力を育成できるようになっている。 	

種目【算数】

書名 項目	<h1>たのしい算数</h1>	4 大日本
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では日常生活に関連した題材となっており、児童の興味・関心を喚起し、必要感をもって取り組めるように工夫されている。 ○適用問題やそれに対応した巻末補充問題「プラス・ワン」で問題量が確保されている。 ○「たしかめ問題」が設定され、習熟度に応じて柔軟な使い方ができるようになっている。また、「しっかりチェック」ですべての児童が取り組みやすいようにしたり、フィードバックマークをつけて児童自身が振り返ったりできるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2学年以降の巻頭に「算数の大切な考え方」が新設された。問題によって使い分ける見方・考え方は「ひらめきアイテム」として設定され、獲得した見方・考え方をメモしたりシールによって増やしていったりすることができるように工夫されている。 ○「読み取る力をのばそう」が設定され、根拠の説明に適した問題や、図を活用する方法も掲載されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「算数の学び方」では、算数の学習の進め方が明示され、学習を生活や他の教科の学習に生かす態度が育つように工夫されている。 ○「おうちで算数」「ふくろう先生のなるほど算数教室」「算数たまてばこ」「読み取る力をのばそう」等で、学習した内容を生活場面で補足したり発展的な学習に活用したりできるように工夫されている。 <p><数学的活動を充実させるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1～3学年に「おうちで算数」、3～6学年に「ふくろう先生のなるほど算数教室」が設定され、算数で学習したことを、日常の生活で活かせるように工夫されている。 ○前時との違いや解決後の疑問を示し、問題から新たな数学的活動が展開できるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「デジタルコンテンツ」が充実しており、随所に二次元コードの掲載がある。作図の仕方や解決への手立てなどを見ることができ、習熟が図れるように工夫されている。 ○身近な内容が多く取り上げられ、社会や自然についても写真や絵で示されている。 ○図や表は直接書き込むことができるようになっている。 ○巻頭には、「算数の学び方」が設定され、問題解決的な学習や話し合いの方法、ノートの手書き方の例が示されている。また、「ひらめきアイテム」として、既習事項やその学年で学習する見方・考え方が整理されている。 ○中学校への学習の繋がりとして高学年には数学の話題が掲載されている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○イラスト内の要素を絞ったり、単元内でイラストのタッチを統一したりしている。 ○本文や吹き出しページ番号等、全面的にUDフォントを使用している。 ○カラーユニバーサルデザインを踏まえた配色となっている。 ○図の測定や書き込みがしやすいよう、その箇所がページの外側に配置されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の「めあて」と「まとめ」が充実しており、考え方に焦点を当てた「発見！考え方」も掲載され、児童が自ら考えをもち、表現できるようにしている。 ○図や式、表などに表したり計算を工夫したりするなど、数理的な処理のよさに気付くことができるようになっている。 ○毎時の適用問題が豊富に掲載され、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるようになっている。 ○主体的対話的で深い学びを実現するため、具体的な構成となるよう工夫されている。 ○思考力・判断力・表現力等を伸ばすことができるように、巻頭に数学的な見方・考え方を示している。 	

種目【算数】

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 算数	1 1 学 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○児童の疑問をもとに課題解決に向かいながら基礎・基本を身に付けられる流れになっている。 ○「できるようになったこと」「ほじゅう問題」で基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるようになっている。 ○「算数パトロール隊」が設定され、つまづきやすいポイントやつまづきにくくする方法を掲載し、苦手を克服できるようになっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題を解決していく際に、見方・考え方を働かせることができる「考え方monster」が9体設定されており、側注として具体例を挙げたり「考え方monster」を使ったまとめが例示されたりしている。 ○「考え方monster」や「学びの地図」「考え方monsterでふりかえろう」等の例示によって、単元の冒頭から最後まで様々な場面で活用できるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元末の「まなびをいかそう」「?かめいつ」「つなげたいな」等では、学習内容を活用したり発展的な学習に取り組んだりできるように工夫されている。 ○「算数をつかって」が設定され、算数の授業の中で使えるだけでなく、社会へ広がっていく力として、学びの中で身に付けた力で社会の様々な問題に取り組む課題を扱うことができようになっている。 </p> <p> <数学的活動を充実させるための工夫> ○単元の冒頭では「?を発見」が設定され、生活場面から疑問点を見つけられるようになっており、そのまま導入問題へと自然な流れで学習できるようになっている。 ○巻頭には前学年までの、巻末にはその学年で学習した数学的な見方・考え方が掲載されている。 </p>	
資 料	<p> ○身近な内容が多く取り上げられ、社会や自然についても写真や絵で示されている。 ○全学年の巻末に資料のページが設けられており、切り取り用教具にはミシン目が入っている。 ○巻頭には、「算数の学び方」が設定され、問題から振り返りまでの学習の流れが示されている。また、「ノート名人になろう」ではノートづくりのポイントが提示されている。 ○「QR コンテンツ」が用意され、動的に図や表などを見ることができるようになっている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○文節改行を取り入れ、読み取る段階でつまづきを解消できるようになっている。 ○写真やイラスト等はカラーバリアフリーとなり、本文書体はUDフォントを使用している。 ○課題と解決過程を紙面の表・裏の配置し、できるだけ解答が見えないようになっている。 ○各時間の主課題など重要項目には枠囲みをし、学習のまとめがわかるようになっている。 ○数学的な見方・考え方やヒント等は、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。 </p>	
総 括	<p> ○「めあて」と「まとめ」のほか、めあてのタイミングで「～したいな」の吹き出し、9つに分かれた見方・考え方の「考え方monster」の記載があり、児童の学びを豊かにするものになっている。 ○図や表などをもとにした多様な考えが示されており、友達と話し合いながら学びを広げることができるようになっている。 ○生活や学習の中から問題を発見し、知識・技能を活用する中で、さらに問いを提示していく工夫がされている。 ○児童の問いを吹き出しの形で示し、次の学習に向けた関心・意欲が高められるようになっている。 </p>	

種目【算数】

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	17 教 出
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学年を超えて既習事項を振り返る巻末「学びのマップ」では、わからない箇所があるときや、関連する内容を振り返りたいときにいつでも参照できるようになっている。基礎的・基本的な内容が定着するように工夫されている。 ○1人1台端末を効果的に活用できるデジタルコンテンツが設定されており、効果的に活用することで児童の理解が深まるように工夫されている。 ○基礎的・基本的な内容に重点を置き、無理なく学習が進められるように工夫されている。 ○練習問題は、毎時の学習の定着・習熟に必要な内容で構成されている。計算練習では基本的な型を色分けして最低限取り組む問題を明確にし、学習進度に合わせた使い方ができるようになっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元全体を通して、数学的な見方・考え方を働かせ、身に付けることができるように、「つながるミカタ」が設定されている。 ○単元末の「4コマ漫画」で、学んだことのよさや見方・考え方を、楽しく振り返れるようにしている。 ○学年末に「算数を使って考えよう」が設定され、全国学力・学習状況調査をふまえて、学習したことを総合的に活用する問題が掲載されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○身近な題材から算数の問題を見だし「はてな」「なるほど」「だったら」の授業の流れで、児童が主体的・対話的に深く学べるよう工夫されている。 ○新学期の始めに授業開きの特設教材が用意されている。問題解決の楽しさを味わいながら、学習の進め方や学ぶ態度を学年で共有できるように工夫されている。 </p> <p> <数学的活動を充実させるための工夫> ○単元末に「学んだことを使おう」が設定され、算数を見つけたり、算数を使って日常の問題を解決したりする活動が掲載されている。学習したことを日常場面に活用し「何ができるようになったか」も実感できるようになっている。 ○巻頭に前学年までに使ってきた「算数のミカタ」「算数の考え方」が掲載されている。 ○児童が対話を通して数学的な見方・考え方を伝え合い学び合う構成になっている。 ○数学的活動が連続して展開できるようにするため、問題解決過程を振り返ったり、新たな問いを「だったら!？」の吹き出しで示したりしている。 </p>	
資 料	<p> ○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。 ○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象を絵と写真で取り上げている ○巻頭に、学習の進め方や算数で使いたい考え方が示されている。 ○巻末に算数用具の使い方や、作図の仕方等が「学びの手引き」としてまとめられている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲みで記されている。 ○各時間の課題・めあて・まとめは囲みで強調されている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 ○全学年において、読みやすい改行に配慮している。 </p>	
総 括	<p> ○各学年の巻頭に、これまでの学習で働かせてきた数学的な見方・考え方を振り返れるようにまとめたものを提示し、見方・考え方が身につくようにしている。 ○右ページで本時の問題場面、課題設定までを行い、児童の問いや気付きをもとに学習を展開できるよう工夫している。ページをめくると半具体物や図などを用いた解決例が提示されている。 ○学びのつながりを実感できる構成になっている。見いだした数学的な見方・考え方を顕在化して単元末で活用するとともに、巻末「学びのマップ」で学年を超えて既習事項を振り返ることができるようにしている。 </p>	

種目【算数】

書名 項目	わくわく 算数	61 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協働的な学びを通してわかったことの定着を個に応じて図ることができるよう、練習や復習のコーナーを設けている。巻末「もっと練習」に補充問題や挑戦問題を用意し、習熟度の応じて取り組むことができるようになっている。 ○各学期に「復習」が設定され、習熟が必要な問題は遡って取り上げられている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見方・考え方を深めよう」や「だれでしょう」などのコーナーでは、数量の関係や問題の条件に着目して解決する文章題を扱い、思考力のさらなる育成を目指す工夫がされている。数量の関係や変化を図や表に整理して解決する文章題を扱い、各学年の学習内容との関連にも配慮し、系統的に配置されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では、身のまわりのことからや既習事項を取り上げ、興味や関心をもって新しい学習へ入っていけるようにしている。単元全体を通してどのようなことを学ぶかを示している。 ○単元末の「学びのまとめ」は3観点に沿って構成されている。児童が自身の理解を確かめ、習熟度や興味・関心に応じてふりかえったり、発展的に考えたりすることができるよう工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことの場面に学んだことを活用したり、算数で学んだことを探求したりするコーナーを設け、活用・探求といった数学的活動の充実を図っている。 ○探究活動の楽しさに触れられるよう、「算数の自由研究」のコーナーを設け、図形の見方・考え方を深める活動を例示している。 ○巻頭の「学習の進め方」において「みんなで話し合おう」の場面設定がされている。 ○児童が他者に説明する際に使う「算数で使う言葉」の話し型が掲載されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。 ○二次元コードを読み取ることで、理解を深めるコンテンツや図形のシミュレーション、解説動画を利用できるようにしている。また、二次元コードの内容が一目でわかるようになっているなど、1人1台端末環境の学びを支える工夫がされている。 ○巻頭に「教科書の使い方」「学習の進め方」「算数ノートとつくろう」に加え、「算数で使いたい考えの進め方」が示されている。「算数で使いたい考えの進め方」では、問題解決の過程で用いられる考え方の例を整理して紹介している。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲みで記されている。 ○これまでに学習したことなどをいかして、児童が自ら問いや見通しを立てる様子を例示する「めばえ」のマークが記されている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いや伝え合う学習場面が多く設定されており、他者と協働的に問題を解決していく態度が身に付くようにしている。 ○動物や自然、環境に関する教材が多く取り上げられ、環境や生命を尊重する心情が育つよう配慮されている。 ○主体的・対話的で深い学びの実現のため、価値付けたい数学的な見方・考え方を強調し、学び合いで深めたいポイントを可視化した学びのつながりを重視する構成になっている。 	

種目【算数】

書名 項目	<h1>小学 算数</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 116 日 文 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい単元に入る前に「次の学習のために」が設けられている。内容の系統性を明確にし、基礎・基本を定着させるために、学習したことをくり返し確認する工夫がされている。 ○単元末には「わかっているかな」「たしかめよう」からなる「学習をたしかに」が設けられている。児童がつまずきやすい内容や、その単元で働かせた数学的な見方・考え方がさらに豊かで確かなものへとようになっていくような構成になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末に「見方・考え方をみがこう」を設け、その単元で働かせた数学的な見方・考え方を意識できるようにしている。 ○教室での学習場面を模した紙面構成で、児童が考え、話し合い、結果を導き出すまでを表現している。各ページの側注で「何に着目し、どのように考えていけばよいか」を示し、児童の思考力、判断力、表現力の育成を支援する工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元のはじめの「単元アプローチ」に、児童たちが「やってみたい」「もっと知りたい」と思うような題材が用意されている。操作活動、既習事項のふり返り、身の回りの観察などにより、児童の学習意欲を高める工夫がされている。 ○「算数ジャンプ」では探求的な問題を扱い、児童が算数の楽しさやよさを感じることができるよう工夫がされている。 <p><数学的活動を充実させるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末の「使ってみよう」では、児童が学習したことを生活の場面にいかし、算数の楽しさや意義を実感できるように、数学的活動の参考となるページが充実している。写真や準備するもの、手順などから、児童が数学的活動を具体的にイメージできるようにしている。 ○児童の話し合いを促すため、巻頭には「算数の学習の学び方」が設けられている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○二次元コードを読み取ることで、理解を深めるコンテンツや図形のシミュレーション、数直線ツールを利用できる。1人1台端末環境の学びを支える工夫がされている。 ○5学年、6学年の教科書（合本構成）には、スピン（しおりひも）がつけられ、児童が教科書のどこを学習しているかが一目でわかるようになっている。 ○数学的活動に用いる資料が設けられており、切り取り教具にはミシン目が入っている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面右上に「単元名」を配置したり、「定義」と「まとめ」のデザインを区別したり、見やすくわかりやすい工夫がされている。 ○紙面右下のページ数を、A 数と計算 B 図形 C 測定・変化と関係 D データの活用の領域別に色分けし、系統性を意識しやすくなっている。 ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲みで記されている。 ○視認性を向上させるため、すべての書体にユニバーサルフォントを採用している。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」の付近に見通しをもち、筋道立てて考えるための「見方・考え方」が配置され、単に答えを求めるだけでなく、数学的な見方・考え方を働かせることを意識できるようにしている。 ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、児童が考えを伝え合い、話し合って学び合う様子がイメージできるように、イラストなどで学習材に即した具体的な思考の過程を丁寧に示している。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ページ側注に学習のステップを示したり、筋道を立てて考えるための着眼点になる「見方・考え方」を配置したりしている。 	

種目【理科】

書名 項目	新しい理科	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○自然の事物・現象について身近な事物や近年話題にされている技術等と自然界とのつながりを写真や図を使い、興味関心をひきだすような構成になっている。各単元末のまとめの部分では、「ふりかえろう」「たしかめよう」の活用問題があり、単元の復習ができるような構成となっている。観察・実験の後の「広げよう！理科の発想」では、学習内容を振り返ることができる構成となっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○課題解決に向け、その過程を「学びのライン」でつなぎ、実験・観察における見通しを持てるような構成になっている。ノートのとり方を通じて思考力・判断力・表現力について振り返りを深めることができる構成となっている。実験・観察結果を比較し、学習のつながりを意識できるようにしている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の導入部「レッツトライ」を設定し、児童が自然の事象に触れて主体的に学習に取り組むことができるようになっている。環境保全に関わる内容については、「環境マーク」が施されている。自然事象に対する疑問や気づきをもとに、実験・観察の流れを示し、主体的に学習活動に取り組むことができるような構成となっている。実験・観察についてSTEAMを深める構成となっている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○問題解決の課程では「問題をつかもう」「予想しよう」「計画しよう」と明記されており、それに合わせてノートの書き方が示されていて、学習の流れを意識しやすい構成となっている。キャラクターの台詞が、理科の見方・考え方や実験・観察の計画のヒントになっている。導入部では、既習内容や日常生活との関連から単元への興味・関心を導きやすい構成となっている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○同様の実験を複数回、複数の方法で検証する構成となっている。キャラクターの台詞が理科の見方・考え方のヒントになっており、問題を科学的に解決できるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○全体を通して図や写真などを活用するだけでなく児童の興味・関心を引いたり理解を助けるための身近な教材が示され、児童が自ら課題解決に取り組むことができるように工夫されている。 </p> <p> ○単元毎にQRコードを用いた活用問題があり、学習内容の理解を深めることができるように構成されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○UD書体を用いて、教員にとって指導しやすく、丁寧な構成となっている。理科が苦手な教員にもわかりやすい。 </p> <p> ○教科書の厚さ・重さとも他社より少し小さく、児童の体力により応じている。これ以上重くなると児童の体力面が心配である。 </p> <p> ○単元導入部とまとめでは、全ての漢字に振り仮名が施されていてよい。 </p>	
総 括	<p> ○安全に配慮が必要な箇所には「きけん」マークを施し、注意喚起をしている。 </p> <p> ○巻頭では、「理科の学び方」を提示し、各学年での学習内容や学習の一連の流れ、課題解決の課程を意識できるように構成されている。 </p>	

種目【理科】

書名 項目	たのしい理科	4 大日本
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○自然の事物・現象について身近な事物や近年話題にされている技術等を用いている。そのため、興味関心、問題を見出すような構成になっている。各単元末の「確かめよう」では、児童自ら学習事項を確認できるような構成となっている。巻末では、器具類の使用法が図解や写真で示されおり、確認しやすい構成となっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「学んだことを生かそう」「チャレンジ問題」では、思考力、判断力、表現力をより高めることができるよう工夫されている。課題解決に向け、解決の発想を誘い、どのような手立てがあるのか、なぜその実験・観察なのかを導きやすく構成されている。ノートの使い方、書き方や対話の例から科学的な発想や表現を導き出しやすいような構成となっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「サイエンスワールド」では、各単元で習得した事柄を活用して、今まで扱ってきた事物・事象に再度関わるなどの学びの深化を図る構成となっている。根拠ある予想や仮説を立てやすい構成になっていて、さらに関連する事項に応用できる事項等を示している。自然環境と人間の共生について思考する場面では「環境マーク」で示されている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○ノートのまとめ方では、学習の流れを意識できるような工夫がなされている。導入部では、日常生活や既習事項を通じて単元への興味・関心につながるように工夫されている。キャラクターの台詞では、理科の見方・考え方を導きやすいように工夫されている。「理科の学び方」では、課題解決のための流れが示されており、身に着けたことが次の課題につながるような構成となっている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○学んだことを確かめたり、次の課題や日常生活に活用したりするための問いや学習の見通しや振り返りのための工夫がなされている。キャラクターの台詞が課題解決につながる理科の見方・考え方のヒントになっており、問題を解決しやすいように構成されている。 </p>	
資 料	<p> ○吹き出しや写真などを活用するだけでなく児童の興味・関心をひいたり理解を助けるための使いやすい教材が示されている。 </p> <p> ○各単元に活用問題があり、学習した内容を定着しやすくする工夫がなされている。 </p> <p> ○日常の科学的な事物・現象から科学的な原理へとつなぎ、日常の科学への応用へと学ばせるような資料となっている。 </p> <p> ○QRコードによる参考情報が活用できるように構成されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○UD書体を使用していて、教員にとって指導しやすく、丁寧な構成になっている。理科が苦手な教員にもよい。 </p> <p> ○教科書の厚さ・重さとも児童の体力にに応じている。これ以上重くなると児童の体力面が心配である。 </p> <p> ○当該学年で学習する漢字には振り仮名を着けている。 </p>	
総 括	<p> ○安全に配慮が必要な箇所には注意のマークが施されており、注意喚起を行っている。 </p> <p> ○巻頭においては、問題解決の道筋や発達段階における問題解決力を身に着けさせる工夫がなされている。 </p>	

種目【理科】

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校理科	11 学図
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○自然の事物・現象について身近な事物を用い、実験・観察において使用器具類のチェック欄があり、多様な図や写真で示されている。単元末に問題が設定されていて、復習を行うことができる。各単元のまとめの部分では、中学校へのスムーズな接続を意識していて、中学で学ぶ際に既習事項として生かすことができる内容である。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○課題解決に向け、解決の発想を誘い、どのような手立てがあるのか、なぜその実験・観察なのかを導きやすく構成している。比較・関係づけ・条件に目を向けさせる・推論の一連の流れがある。活用学びを活かそうにおいては、話し合い活動を用いて、思考力、判断力、表現力の育成が図られている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元で習得した事柄を活用して、今まで扱ってきた事物・事象に再度関わるなどの学びの深化を図っている。自然事象に対する疑問や課題を明確に意識できる構成になっている。また、人が他の生物と関わりながら生かされている内容も明確にされている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○キャラクターの言葉を活かして、理科の見方・考え方を導きやすい構成となっている。導入部分で既習内容や日常生活との関連から、興味・関心を導きやすい構成となっている。観察や実験の結果を処理、記録の仕方の丁寧な説明がなされている。危険回避について、実験・観察の手順毎に示されている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○課題を立てたり、調べたりする上で必要な情報をキャラクターの台詞や、わかりやすい図やイラストで示されている。学んだことを確かめたり、次の課題や日常生活に活用したりするための問いや学習の見通しや振り返りのための構成がなされている。 </p>	
資 料	<p> ○図や写真などを活用するだけでなく児童の興味・関心をひいたり理解を助けるための身近な教材が示されている。 </p> <p> ○日常の科学的事物・現象から科学的な原理へとつなぎ、日常の科学への応用へと学ばせるような豊富な図を活かした資料となっている。 </p> <p> ○QRコードによる活用問題があり、学習内容の深化が図りやすく構成されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○教員にとって指導しやすく、丁寧な構成である。理科が苦手な教員にもよい。 </p> <p> ○教科書の厚さ・重さとも他社より少し小さく児童の体力により応じている。これ以上重くなると児童の体力面が心配である。 </p> <p> ○当該学年の配当漢字には、振り仮名を付している。 </p>	
総 括	<p> ○安全に配慮すべき箇所に、注意喚起が示されている。 </p> <p> ○各学年での学習内容や課題解決の一連の流れがわかりやすく示されている。 </p>	

種目【理科】

書名 項目	未来をひらく小学理科	17 教出
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○自然の事物・現象について身近な事物や近年話題にされている技術等と自然界とのつなが等を図解、興味関心、問題をひきだすような構成になっている。各単元のまとめの部分では、「振り返ろう」や「確かめよう」を通じて中学校へのスムーズな接続を意識しているため、中学で学ぶ際に既習事項として生かすことができる内容である。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○実験・観察の手順等が図でわかりやすく説明されている。課題解決に向け、解決の発想を誘い、どのような手立てがあるのか、なぜその実験・観察なのかを導きやすく構成されている。「確かめよう」において思考力・判断力・表現力等を高めることができる構成となっている。 ○キャラクターの台詞の中に理科学的見方・考え方に通じるヒントが示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の導入部では、キャラクターの話し合いや台詞の中に主体的・対話的に問題を見出し、課題を解決していく過程を表現していくためのヒントがある。 ○根拠ある予想や仮説を立てやすい構成になっていて、さらに関連する事項に応用できる事項等を示している。 ○自然事象に対する疑問や気づき、学習課題の問いが明確である。 ○算数との関連、各施設の利用等についての説明があり、将来の学びに生かせる構成である。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○「学習の進め方」では課題解決の見通しが示されていて、次の課題へつながる構成となっている。ノートのとりが明記されていて、観察や実験の結果を処理、記録の仕方の丁寧な説明がなされている。導入部では、既習事項や日常生活との関連から単元への興味・関心を引き出すように構成されている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○課題を立てたり、調べたりする上で必要な情報をわかりやすい図やイラストで構成されている。キャラクターの台詞に児童が問題を科学的に解決するヒントが示されている。学んだことを確かめたり、次の課題や日常生活に活用したりするための問いや学習の見通しや振り返りのための構成がなされている。同様の実験を複数の実験方法で行う検証が示されている。 </p>	
資 料	<p> ○発展的な内容では、図や写真などを活用するだけでなく、より深く学びを進める記述がなされている。 ○日常の科学的な事物・現象から科学的な原理へとつなぎ、日常の科学への応用へと学びを広げるような豊富な図や写真を活かした資料となっている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○教員にとって指導しやすく、丁寧な構成である。理科が苦手な教員にもよい。 ○教科書の厚さ・重さとも児童の体力により応じている。これ以上重くなると児童の体力面が心配である。 ○該当学年の配当漢字に、振り仮名を付している。 </p>	
総 括	<p> ○安全に配慮を要する箇所には、注意喚起がなされている。 ○「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」や「学習の進め方」を示し、理科の見方、考え方を明示し、課題解決の課程を意識できる構成となっている。 </p>	

種目【理科】

書名 項目	<h1>楽しい理科</h1>	26 信 教
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○実験・観察では、準備と手順が見やすい写真で示されている。そのため、興味関心、問題を見出すような構成になっている。「ふりかえろう」で学習内容の確認ができる構成となっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○実験・観察の手順等が図やイラストでイメージしやすく構成されている。課題解決に向け、「考察しよう」では、キャラクターの台詞では、思考力、判断力、表現力を導きだせるように工夫されている。「理科の学習の進め方」では、思考力、判断力、表現力の深化を図る内容となっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自然界の循環や連鎖について意識が向かうように工夫されている。単元の始めにおいては、事象提示から問題意識をひきだすように工夫している。学習内容の定着を確認することができる。既習内容や生活経験の想起の場が設定されている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○キャラクターの台詞では、理科の見方・考え方のヒントが示されている。ノートのまとめ方が示されており、観察や実験の結果を処理し、整理する等の一連の流れが示されている。実験・観察の際の安全のための配慮事項について丁寧に説明されている。実験の様子が見やすい写真で示されていて、実験方法がよくわかるように工夫されている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○キャラクターの台詞では、理科の見方・考え方をもとに問題を科学的に解決できるように工夫されている。「見つけよう、ふしぎなぜ」では、疑問がひきだせるように工夫されている。同様の実験を複数回、複数の実験方法で検証する例が示されている。 </p>	
資 料	<p> ○学習の流れの中で QR コードによる参考情報の活用について工夫がなされている。 ○活用問題を通じて学習内容の定着を図れるように工夫されている。 ○キャラクターの台詞を通じて、理科の見方・考え方が示されており、問題解決に向けての配慮がなされている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○教員にとって指導しやすく、丁寧な構成となっており、理科が苦手な教員にもよい。 ○当該学年の配当漢字には振り仮名を付している。 ○UD 書体を採用している。 </p>	
総 括	<p> ○安全に配慮が必要な箇所にはマーク等で注意喚起がなされている。 ○巻頭では「1年間の学習」や「理科の学習の進め方」を示し、季節と関連付けた学習の課程のつながりを意識した構成となっている。 </p>	

種目【理科】

書名 項目	<h1>わくわく理科</h1>	61 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○自然の事物・現象について身近な事物や近年話題にされている技術等をイラストを用いている。そのため、興味関心、問題を見出すような構成になっている。各単元のまとめでは、「まとめノート」での振り返り、「たしかめよう」で学習内容の確認ができる構成となっている。実験・観察では各単元で使用する器具の取り扱いについて詳しく説明されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○実験・観察の手順等が図やイラストでイメージしやすく構成されている。課題解決に向け、「考察しよう」では、キャラクターの台詞にマーカーが施されていて、思考力、判断力、表現力を導きだせるように工夫されている。「活用しよう」では、思考力、判断力、表現力の深化を図る内容となっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「くらしとリンク」では学習内容が日常の科学につながる構成となっている。「はじめに考えよう」の問いをまとめにおいて再確認することができ、学習内容の定着を確認することができる。実験・観察の一連の流れでSTEAMを活かす構成となっている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○キャラクターの台詞にマーカーが施されていて、理科の見方・考え方のヒントとなっている。ノートのまとめ方が示されており、観察や実験の結果を処理し、整理する等の一連の流れが示されている。実験・観察の際の安全のための配慮事項について丁寧に説明されている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○キャラクターの台詞にマーカーが施されており、理科の見方・考え方をもとに問題を科学的に解決できるように工夫されている。学んだことを確かめたり、次の課題や日常生活に活用したりするための問いや学習の見通しや振り返りのための工夫がなされている。 </p>	
資 料	<p> ○学習の流れの中でQRコードによる参考情報の活用について工夫がなされている。 ○活用問題を通じて学習内容の定着を図れるように工夫されている。 ○キャラクターの台詞を通じて、理科の見方・考え方が示されており、問題解決に向けての配慮がなされている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○教員にとって指導しやすく、丁寧な構成となっており、理科が苦手な教員にもよい。 ○教科書の厚さ・重さとも他社より少し小さく児童の体力により応じている。これ以上重くなると児童の体力面が心配である。 ○当該学年の配当漢字には振り仮名を付している。 ○UD書体を採用している。 </p>	
総 括	<p> ○安全に配慮が必要な箇所にはマーク等で注意喚起がなされている。 ○課題解決や季節を関連付けた学習を展開できるように工夫がなされている。 </p>	

種目【生活】

書名 項目	上 どきどきわくわく 下 あしたへジャンプ 新編 あたらしいせいかつ	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の気づきを促す場面が写真、イラスト、吹き出しなどで示されている。 ○「やくそく」「かつどうべんりてちょう」で学習活動に即した技能や生活習慣を身に付けられるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が思考、判断、表現をしている姿が、イラストや吹き出しに示されている。 ○「みつける」「くらべる」「たとえる」など考えるための活動例がイラストや写真、吹き出しに示され、児童が気づいたことを考えられるようになっている。 ○多様な表現活動や交流活動が示され、児童が考え取り組めるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動中のイラストや写真により、粘り強く取り組む様子が示されている。 ○思いや願いを実現する活動を繰り返すことで、自分の成長を感じ、次の活動やその後の生活に生かそうとする姿が示されている。 <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめに、児童の活動場面の写真を掲載し、活動への意欲を引き出すように工夫されている。 ○小単元の初めには、問いかけの形の言葉を示し、児童を活動へ促す構成になるように工夫されている。 ○表現方法として、学習カードを中心に、折り畳み絵本、新聞などの方法が提示されている。学習カードの書き方のページには、注目すべきところや表現のポイントが示されている。 ○スタートガイドがついており、幼保から1年生へのつながりが意識されている。 ○他教科へつながる学びが教科のマークで記載されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードが充実している。いろいろなコンテンツがあり、場面によって考えられる構成になっている。生き物デジタル図鑑などもある。 ○上巻末の「いきものずかん」では、季節ごとに実物大の動植物のイラストを掲載している。 ○巻末の「かつどうべんりてちょう」では学習の仕方が紹介されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が進んで利用したり考えたりしたくなるような臨場感あふれる写真が多い。ユニバーサルデザインを意識している。 ○UD フォントを利用したり、文節で区切ったりして、読みやすくなっている。 ○マークを使用し、児童の思いを視覚的に示している。 ○ページの割り振りが大きく、見やすくなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小、学年のつながりを意識した構成になっている。 ○活動のめあてとその活動で育成すべき資質・能力を示したマークを組み合わせることで、指導と評価の一体化が図れるように工夫されている。 ○児童キャラクターの姿や、臨場感がわく写真、イラストなどの表現方法により、具体的な活動イメージがつかめるように工夫されている。 	

種目【生活】

書名 項目	新版 たのしいせいかつ	4 大日本
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「がくしゅうのどうぐばこ」に豊富な資料を掲載し、基本的な知識・技能の習得が図れるようにしている。 ○「やくそく」では、安全に関する約束や、マナーに関する技能の習得ができるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の流れを把握し、自ら思考できるように、児童自身に考えさせるための投げかけを示している。 ○話型を示し、児童自身の言葉を引き出すよう工夫したり、実際にやってみたり作ったりする動作化などの多様な表現方法を例示したりしている。 ○他の教科と関連する活動を多く示している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動後の振り返りから、次への活動へつながる流れを意識して構成している。 ○単元ごとに「きもちマーク」があり、児童の思いを記録する工夫がされている。 ○学習したことを自分の生活に生かしたり、活動したことを家族に伝えたり、学びを生活に生かすことができるようにしている。 <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童目線の写真やイラストが提示されている。昆虫や植物を細部まで見ることができる写真が掲載されている。 ○多様な方法（言葉、絵、動作化など）により表現し、児童自ら考えることができるような例示がある。 ○友達と伝えあったり、クラスで話し合ったりする場面が繰り返し取り上げられ、児童が気付きを共有し、考えを深めている姿が例示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードでは、資料が提示されている。 ○「がくしゅうどうぐばこ」では、季節の植物のイラストや、学習の仕方や学習を生かした活動、海外の文化について紹介されている。 ○カードやビンゴなどの書き込み欄を設け、児童が楽しみながら活動を進めることができるように工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間ごとに学習の振り返りを、気持ちマークを使って表すことができるように工夫されている。 ○UDフォントを使用したり、カラーUDの観点から、配色を工夫したりしている。 ○写真や文字を入れすぎず、すっきりとしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードや作品など、児童の表現物が例示されており、学習評価の参考となるように工夫されている。 ○「せいかつことば」や「きらきらことば」など、人との関わりがより深まることを促す言葉を紹介し、児童の語彙力が向上するように工夫されている。 	

種目【生活】

書名 項目	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ	11 学図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ものしりのうと」は学習体験や知識が広がるよう構成されてる。 ○「やくそく」コーナーで活動や体験の中で、生活上必要な知識・技能を身に付けられるようにしている。 ○手洗いの習慣が身に付くよう、手洗いマークを提示している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が考えたことを人に伝える手段を選んだり、学校で学んだことを家庭で伝えたりする活動を取り入れるなど対話の場面を大切に扱い、自分の考えを広げたり、深めたりできるようになっている。 ○児童の思いや気づきをさまざまな方法で表現できるように配慮されている。例示された学習カードには、簡単な自己評価（顔マーク）欄がある。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学び方ずかん」を上下巻に設け、児童が参考にし、自らの活動を広げていけるように配慮されている。 ○児童の自発的な言葉をもとにしたリード文、活動の楽しさを伝える写真やイラスト、親しみやすい4人のキャラクターで活動意欲を引き出すよう工夫されている。 ○スタートカリキュラムへの配慮がされている。 ○単元の終わりに「もっと〇〇したいな」のページがあり、これからの生活とつなげて考えたり、家庭とのつながりを意識させたりする工夫がある。 <p>＜具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページ左上に活動の内容を示し、その下の言葉で児童の思いや願いを表すように工夫されている。 ○上下巻を通して登場する4人のキャラクターが、活動を通し、友達と関わり合いながら成長していく姿が表現されている。 ○気づいたことや楽しかったことなどを、多様な方法により表現し、考えることができるように、他教科につながる指導例が示されている。 ○下巻では、多様な表現でのまとめが例示されており、これまでの学習を基にして「できるようになった自分」を振り返ることができるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードでは、動画や動植物の図鑑などを見ることができる。 ○「ものしりずかん」では、単元に合った動植物や施設などを見ることができる。 ○「ものしりノート」では、野菜の育て方やおもちゃの作り方などを紹介している。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら進んで学べるように、イラストで活動の内容や活動の流れを表現している。 ○見開き右下に、次の活動を示唆するイラストが配置されている。 ○吹き出しが人物ごとの色分けになっていたり、写真の大きさや形が一定になっていたり、見やすくなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに主となるキャラクターが設定され、対話の中で自分の考えを伝えたり、考えをかえたりしながら、変容していく様子が表現されるように工夫している。 ○ワークシートやまとめの作文など、文を書く場面を多く設定している。 	

種目【生活】

書名 項目	せいかつ 上 みんななかよし 下 なかよしひろがれ	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教出</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「やくそく」で、学習の中で身に付ける知識や技能、マナーを示している。 ○「学びのポケット」は、基本的な生活習慣や生活科と他教科との連携が意識できるような内容に工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見つける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの学習活動を「ヒント」で示している。 ○思考を促す吹き出し入りの児童の写真や挿絵が添えてあり、思考する視点が整理しやすくなるように工夫されている。 ○「なにをかんだかな」のページで、自分が伝えたい方法を例示してあり、表現活動につながるようになっている。 ○いぐらの発見ロードで、自分の活動を選び、次の個々の活動へとつながられる。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元導入「わくわくスイッチ」や、単元を貫く「はっけんロード」、試行錯誤を促す「かんがえまとめいろ」、振り返りを助ける「ぐんぐんはしご」が設けられ、学び方を身に付けて、主体的な学びが展開できるように工夫されている。 ○「もしも」のページでは、自分の考えを深められるようになっている。 </p> <p> <具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○小単元の初めには、児童の期待や疑問を問いかけの形で示し、言葉で活動を喚起できるように工夫されている。 ○2人の主人公が活動する様子から、期待感をもって取り組めるように工夫されている。見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど対象に直接働きかけることができるようにしている。 ○季節を変えて、繰り返し同じ場所について比較をしている。 ○他教科とのつながりを意識して、絵、文章等を大きく提示している。 </p>	
資 料	<p> ○QR コードでは、動画、ワークシート、デジタル図鑑などを見ることができる。 ○具体的な活動や体験を促すために、写真を多く取り上げ、教科書全体が児童の活動を促す作りになっている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○「はじめのいっぽ」や単元を結ぶ道で、学びの連続性がわかりやすいように工夫されている。 ○UDフォントを使用したり、判読しやすい配色やレイアウトにしたりするなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている。 ○イラストや写真に、多国籍、車いすの児童などがうつり、多様な人々がいることへの配慮がされている。 ○吹き出しは人物ごとに色分けしてあり、わかりやすいようになっている。 </p>	
総 括	<p> ○各小単元で最も育てたい資質・能力が「サイコロ」で示され、児童と教員が共に学習の「めあて」を把握できるように工夫されている。 ○学習カードや作品など、児童の表現物が発達段階を意識して例示されており、学習評価の参考となるように工夫されている。 </p>	

種目【生活】

書名 項目	せいかつ 上 あおぞら 下 そよかぜ	26 信教
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○生活の中で注意することや安全に関することがマークで示されている。 ○動植物との継続的なかわりを通して、命の大切さを実感できる構成になっている。 ○地域の特色や実際の行事の写真・絵を掲載し、短い言葉を使いながら生活上必要な習慣や技能が習得できるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○児童の願いから立ち上がる意識の高まり具合を、吹き出しや写真、イラストなどで示している。 ○試す・確かめるなどの「探究活動」、自らの体験を見返し合う「表現活動」などを多様に示し、より深い学びにつながるようになっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○地域に根差したふれあい、交流を通して、様々な学びを深めていく単元構成になっている。 ○単元ごとに振り返りの場を設定している。家族や地域とのかわりを通し、自分の成長を実感できるようになっている。 </p> <p> <具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫> ○単元を象徴する写真や挿絵を掲載し、活動への期待感を高めるように工夫されている。 ○動物や植物との継続的な関わりの中で、命の大切さに気付けるように工夫されている。 ○表現方法として絵や日記、模造紙や手紙などの方法が提示されている。絵の中の児童が思い思いに活動していることで、様々な方法で表現しようとする意欲を高められるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○QR コードでは、動植物の写真を見ることができる。 ○七夕、お正月など、季節と関わりのある地域の行事が掲載されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○体験や活動の質が高まるよう、児童の言葉を吹き出しや対話、詩、作文などで表現している。 ○児童が親しみ、進んで利用したくなるように、挿絵が多く使用されている。家族や仲間、地域の人々と触れ合う場面が多くある。 </p>	
総 括	<p> ○地域に生まれ、地域に育つ児童が、四季を通して人やもの、その場所に関わることを重視した内容構成となるように工夫されている。 ○家庭・地域と共に児童を育てる生活科の実践を目指すように工夫されている。 </p>	

種目【生活】

書名 項目	せいかつたんけんたい 上 はじめてがいっぱい 下 はっけんだいすき	38 光村
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「きをつけよう」に安全や健康にかかわる情報がまとめられている。 ○「どうしてだろう なんてだろう」のコーナーで、着目させたいポイントやルールについて、イラストを使って示されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○活動について気づいたり考えたりする児童の様子を示すことで、児童が活動の中で考えを深めるための手がかりを示している。 ○発達段階や学習活動に応じた記録カードや表現の例を豊富に提示している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○ダイナミックな写真や楽しいイラストでイメージが広がるように工夫されている。 ○単元名や問いかげについて考えることで、具体的な思いや願いにつながるようになっている。 ○すべての単元に振り返りの場を設定している。次の学びにつなげられる。 </p> <p> <具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○各単元に、学習材と児童の写真に掲載し、活動への意欲付けが図られるように工夫されている。 ○活動に関するイラストのコーナーに掲載されているつぶやきが、児童の気付きを促すように工夫されている。 ○表現方法として、絵やポスター、パンフレット、すごろく、ランキング、巻物、絵本、紙芝居やスライドショーなどの方法が提示されている。 ○巻末には、記録の仕方やポイントが載っており、学習の参考にできるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○QR コードでは、動画やアニメーションなどを見ることができる。 ○上巻末に「きせつのなかまたち」がある。写真がきれいで見やすい。 ○巻末に「ひろがるせいかつじてん」があり、学習の仕方や動植物などが紹介されている。とりはずしできるのがよい。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○食器洗いをお父さんが担当したり、車いす、外国人の児童が掲載されていたり写真でもユニバーサルデザインを意識している。 ○児童が親しみ、進んで利用したくなるように、学習展開が一目でわかる構成になっている。 ○1年生のスタートカリキュラムが丁寧に記されている。 </p>	
総 括	<p> ○絵本作家のかき下ろしイラストを教科書の随所に掲載し、児童と一緒に考えてられるように工夫されている。児童の目がいきやすい。 ○写真、イラストが児童の意欲や想像力を刺激するものとなっている。一方、写真にすぐ目がいかないページもある。 ○学んだことを次の学習活動に活かすために、学習活動のページの見開きごとに振り返りの場が設けられている。 </p>	

種目【生活】

書名 項目	せいかつ 1年わくわく 2年いきいき	61 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身、身近な人々、社会及び地域の特徴やよさ、それらの関りなどに気付いている児童の姿が写真やイラスト、吹き出しで具体的に示されている。 ○「気をつけよう」や「学びのヒント」コーナーで基本的な生活習慣や生活技能、健康や安全に関する知識が身に付くよう工夫されている。 ○「がくしゅうずかん」には、調べ方まとめ方、安全上の注意が示されており、基本的な知識・技能が身に付くようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元は導入「わくわく」、主たる活動「いきいき」、振り返り「ぐんぐん」の3段階で構成され、自分の思いを実現し、学びを深めていけるようになっている。 ○気づいたことをもとに考えるための多様な学習活動の例が豊富に示されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○思いや願いの実現に向けて、自ら働きかける児童の姿が写真やイラストで示されている。 ○「できるかな?できたかな?」では、次の活動への意欲が育まれるように工夫されている。 ○「ひろがるきもち」では、児童の生活を広げ豊かにしようとする姿が示されている。 <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめを写真や問いで構成し、児童の意欲を喚起する工夫がされている。 ○ページの右下にめくり言葉を設定し、活動の中で生まれた気付きや、次の活動への思いや願いを文字にして、意欲を高めるように工夫されている。 ○表現方法としてカードやクイズ、付箋、絵や紙芝居、巻物などの方法が提示されている。 ○巻末には、記録の方法やポイント、友達と伝え合うための工夫が解説されており、予想や例えなど書く上でのヒントになるように工夫されている。 ○グループやクラスでの伝え合いの場面、表現活動の例示が多く、板書や机配置なども取り上げられていて学びの見通しがもてる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードでは、動画、スライドショー、ウェブリンクなどを見ることができる。 ○上巻巻頭に「すたあとぶっく」下巻巻末に「3年生へのステップブック」が設けられ、次学年へのつながりも意識されている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の初めに大きな写真と疑問があることで、自分の経験と重ねることができる。吹き出しは文節で区切り、読みやすくなっている。 ○UDフォントを使用したり、紙面を判読しやすい配色やデザインにしたり、ページの割り振りが見やすいなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の流れをわかりやすく示すために、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階構成になるように工夫されている。 ○ICT 機器を活用した学習活動の例を掲載し、教室外の体験と教室内の学びを一体化できるように工夫されている。 	

種目【音楽】

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>小学音楽 音楽のおくりもの</p>	<p>17</p> <p>教田</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項をページ番号で具体的に示し、確認したり関連付けたりすることができる。 ○「スキルアップのコーナー」(歌声とリズム)が各学年の最初に配置されており、常時活動等でも活用できる。 ○楽器の導入に8ページ割かれ細やかなステップで扱われる。新出音も緩やかに段階を追って扱われ、発達段階に即した技能の定着に配慮されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの気付きや思いを引き出すような問いや、協働して学習を進める場面を示している。 ○「まなびナビ」では、学び方の手順の例示や、発展的な学びへのヒントを示し、個別最適な学びや協働的な学びに配慮している。 ○曲の魅力について気付きを書き留めたり、意見を交換したりするような学習が設定され、言語力を活用した学習や協働的な学習に配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習マップでは、「学習の進め方」が設定され、知識・技能及び思考力を高められるよう具体的な学習方法を明示している。 ○2次元コード「まなびリンク」の豊富な資料で児童の興味・関心を高められる工夫がみられる。 ○音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」としてページ上部に明示し、メモ欄を設けて気付きを書き込めるようにしている。 ○Short Time Learning コーナーとして他教科(国語・算数・理科)の関連する歌を掲載し、国際理解教育等、教科横断的な活動が取り組みやすくなっている。 ○各学年の共通教材のうち1曲は、三つ折りのページとして、様子を思い浮かべられるような写真とその解説を掲載している。 <p><生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の伝統的な楽器や、民謡、諸外国の音楽など、鑑賞や表現を通して多様な文化に触れられるように構成されている。 ○全学年共通の楽曲を掲載し、発達段階に応じた編成により全校児童で一つの曲を演奏する一体感を味わえる設定がしてある。 ○SDGs、国際理解教育、人権教育に関する写真やコラムは、著作者の創造性を尊重する意識の育成に配慮されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○個別最適な学びや協働的な学びに配慮し、学び方の例示や発展的な学びへのヒントを「まなびナビ」で示している。 ○各学年に「君が代」が配置され、オリンピック等の写真とともに掲載され、国歌がどのようなときに歌われるのかの視野を広げようとする説明や資料がある。 ○4年生以上の巻頭には、音楽に携わる人の紹介や、演奏家からのメッセージ等、音楽をさまざまな視点から捉える内容が掲載されている。 ○3年生以上の巻末折り込みにはリコーダーの運指表がある。 ○「音楽ランド」のコーナーでは歌唱、器楽等の教材が発達段階に応じて配置されている。 	
<p>表 記</p> <p>表 現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザイン(デザインやフォント、色彩デザイン)にも配慮されている。 ○スタートカリキュラム(幼児期との連携)や発展として中学校との連携を意識した題材の配置に工夫が見られる。 ○表現活動と鑑賞活動を効果的に組み合わせ、全学年の系統性に基づいて組織された題材であり、教材性を生かして関連・対照・対比されながら配列に工夫が見られる。 ○歌詞のイメージへの想像が高まるよう写真等が配置されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の内容が関連づけられた題材が、系統性と発展性をもって組織されている。 ○既習事項を振り返るマークにより丁寧なステップアップがはかれるよう工夫されている。 ○わらべうたや各地のお祭りの音楽などが各学年に配置されており、我が国の伝統音楽に親しむ配慮がされている。 	

種目【音楽】

書名 項目	<h1>小学生の音楽</h1>	27 教芸
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○常時活動（リズム、階名あて、リコーダーのタンギング等）の活用の仕方が紹介されている。 ○既習事項を振り返るアイコン「おもいだそう」で既習事項を確認したり関連付けたりすることができる。 ○「歌声ルーム」では、曲想にふさわしい声の出し方、体や息の使い方等のコラムから、その曲の表現に必要な技能を示している。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○ねらいを捉えやすくするために学習活動の示し方を改善している。学習の手順や発問が示される場所もあり、思考、判断を促している。 ○対話的な学びにおいて、学習のねらいに達成に向けて考えてほしいことや発言の例が、吹き出しで示されている。 ○2次元コードで、各音源、鑑賞曲の旋律を目で追える動画、音楽づくりにアクセスできる。個別最適な学びをサポートし、個人の演奏の技能に左右されない音楽づくりが可能である。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○1年間の見直しをもつために、各学年の冒頭に学習マップがあり、学習したことをいつでも確認できるように振り返りのページが配置されている。 ○鑑賞・器楽・歌唱・音楽づくりの教材がバランスよく配置されているため、様々な学習を通して楽しみながら音楽の力を身に付けることができる。 ○各ページにある2次元コードで、作曲者の関連するHP等にもアクセスでき、豊富な資料で児童の興味・関心を高められる工夫がみられる。 </p> <p> <生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○3～6年生の巻頭に音楽に携わる人の紹介やメッセージが載せられていて、より広い視点から音楽を考えたり、親しみをもてたりできる内容にしている。 ○6年生には、「いろいろな音楽をきいてみよう」を設け、ジャンルの異なる様々な音楽と日本の古典芸能が掲載され、幅広くいろいろな音楽に出会えるようにされている。 ○作品を尊重することの大切さを考えるきっかけになる音楽に関わる権利についてのコラムや、音楽が社会で果たす役割について考えるきっかけになるコラムがある。 ○裏表紙には、地域の文化や伝統を受け継いでいけるよう、興味を引く写真を掲載している。 </p>	
資 料	<p> ○SDGsにつながる視点の資料や、道徳教育や人権教育に配慮する写真やコラムなどの資料があり、多様な他者を価値のある存在として尊重し、協働していくことができるよう配慮されている。 ○各ページの二次元コードを読み取ることで、学習をサポートするコンテンツ（音源や作曲家等の詳細の資料、楽器の奏法等）にアクセスできる ○各学年の巻末に「君が代」があり、発達段階に応じた国歌に対する説明や資料がある。 ○3年生以上の巻末にはリコーダーの運指表がある。 ○「みんなで楽しく♪」のコーナーでは歌唱、器楽等の教材が発達段階に応じて配置されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○ユニバーサルデザイン（デザインやフォント、色彩デザイン）にも配慮されている。 ○表紙に各学年のテーマが含まれており、子供たちが協働しながら音楽を学んでいく様子が描かれている。 ○題材において、「何を目標に」「どのような活動を通して」「何を学ぶのか」が一目で分かるように示され、写真やイラストも児童の曲の理解や想像が高まるよう関連付けて配置されている。 </p>	
総 括	<p> ○歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の内容の関連が題材ごとに色分けされたページで配置されている。 ○音楽に関する汎用的な力を育てる題材構成が学びの関連性、学びの積み重ね、学びのつながりを高めていく工夫があり、児童自身も学年を超えた題材の系統性を感じやすい配慮がされている。 ○各学年に郷土の文化を受け継ごうとする気持ちを養うコーナーが各学年にあり、我が国の伝統音楽に親しみ配慮がされている。 </p>	

種目【図画工作】

書名 項目	図画工作	9 開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○毎回、キャラクターが学習のポイントを伝え、知識や技能が身に付くようにアドバイスをし、楽しく学べる工夫がされている。 ○「参考ページ」「ひらめきショートチャレンジ」では、活動で使用する用具の使い方や発想・構想の力を身に付けさせるためのヒントが得られるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元のページでは学習のめあてが3つのキャラクターでわかりやすく投げかけられている。教師や児童が学習のめあてを理解し、取り組みやすいよう工夫されている。 ○活動時の必要な気付きをキャラクターが伝え、発想を広げる工夫がされている。 ○思考場面、製作場面、試している場面の写真が掲載され、それらを参考にしながら自分の思いを表現できるように紹介されている。参考作品は、縦と横の両作品例を載せることで、アイデアを広げたり、イメージを膨らませたりできるよう工夫されている。児童が一目で作品の作り方が理解できるような写真が多数掲載されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫> ○目次の見開きで学年全体の活動内容が示されており、児童だけでなく教師もカリキュラムの見通しを立てることに活用できる。 ○キャラクターがどんな思いをもって取り組めばよいかアドバイスしている。</p> <p><表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫> ○表紙の題名と裏面のアーティストの活動写真の見出しとがつながっており、社会とのつながりを感じさせ、児童自身の将来への意欲喚起につながる工夫がされている。 ○見方や考え方を広げる「小さな美術館」や地域の特徴やよさ、伝統工芸など表現のよさや面白さを感じ取れる「みんなのぎやらりー」が効果的に提示されている。 ○題材によっては、外国の児童の作品やアーティスト作品、自然物の美しさ、建築物など身の回りの美しさを感じられるものがあり、社会に目を向け、鑑賞能力を育成できるよう工夫がされている。</p> <p><用具の安全な取扱いについて指導するための工夫> ○単元ごとに安全に関わる注意喚起がイラストや文章でわかりやすく示されている。 ○巻末の「学びの資料」では学習指導要領に示されたそれぞれの学年で扱うべき用具や材料についてまとめてあり、使い方や気を付けるべきことが写真や絵をまじえてわかりやすく解説されている。</p>	
資 料	<p>○QRコードでは学習者用端末で題材に関わる参考となる作品やワークシートなどを見ることができ、導入から発想の広げかた、振り返りなど、児童が幅広く主体的に活動できる工夫がなされている。また、巻末には、学習者用端末を図画工作科の学習の中でどう生かすかのヒントが学年の発達の段階に応じて提示されている。 ○他教科との関連がわかりやすく明記されている。SDGs と学習の関わりについて記述されたコーナーが各学年に提示されている。</p>	
表 記 表 現	<p>○題材名が丸みを帯び、デザイン性のある字形になっており、わくわく感を与える。 ○学習で使用する主な材料や用具類が題材ごとに左上に絵のマークで示されている。 ○写真の作品の番号や当該学年で学習する漢字へのフリガナなど細かな点に配慮されている。また学年に応じて文字の大きさを変えたり適切に改行されたりしている。 ○学習の教材研究から片付けまで、教科書を開いただけである程度見通しを立てることができる。若手教師はもちろん、保護者も理解しやすく構成されている。</p>	
総 括	<p>○ねらいと評価が一体化されている。特に重点を置くねらいと教科書の中に出てくキャラクターのアドバイスや振り返りの内容が一致するなどの工夫がされている。 ○単元ページでは、見開きで一つの題材が完結しており、めあてから活動のサポート、片付け、振り返り、発展の学びなど、見通しをもって児童が主体的に取り組める。</p>	

書名 項目	図画工作	116 日 文
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○絵の具の表現方法や工作のしくみなどがわかりやすく写真や絵で表されている。 ○目次ページでは、学年全体の活動内容と目標が一目でわかるようにすっきりと構成されている。題材表示の前に造形と、目指すべきめあての項目があり一目でわかる。 ○重点をおいて育成する資質能力が3つのマークで示されており、教師も児童もすぐに理解できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○考えたり工夫したりするヒントがあり、児童の思考力を高める工夫がされている。 ○吹き出しをもとに考えたり表現したりできるよう工夫がされている。 ○参考作品や製作過程の様子がたくさん掲載され、創造的に発想や構想できるようキャラクターと言葉、写真で紹介されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫> ○見開きで学習が見通せる形になっている。毎回本時のめあてが明記され、教師も児童も意識して学習ができるよう工夫されている。 ○ものづくりに様々な形で携わる人たちの方のメッセージ動画が見られ、図工で大切にしたいことや学びの先にあるものを考えるきっかけになるよう工夫されている。 ○友達と協働している写真、家庭での活動例をとった写真が多く掲載されている。</p> <p><表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫> ○鑑賞のヒントが毎回題材ページに示されている。特に感覚を言語化した表現が吹き出しで示されており、イメージが膨らむ工夫がされている。 ○「広がる図工」では地域の特徴のよさや伝統工芸などを生かした造形活動が紹介されている。リンクの二次元コードからSDGsの考えを受容することにつながっている。 ○「教科書美術館」や巻末には、楽しく鑑賞する工夫がある。 ○全巻末の「アート・カードを楽しもう」では、アート・カードの活用法がわかり、作品や生活の中の美を見つける目を養うことができる。</p> <p><用具の安全な取扱いについて指導するための工夫> ○巻末の「ざいりょうと用具のひきだし」では、用具の使いかたや安全面で気を付けることについて記述されている。 ○ページ右下の「気をつけよう」では、安全を配慮した呼びかけを端的な言葉で示し、授業中に短時間で確認できるようになっている。また特に安全に留意させたい用具については、動画の視聴ができるよう工夫されている。</p>	
資 料	○全体的に写真が多く活用されており、わかりやすい。ダイナミックな写真も毎冊使用されており、迫力がある。 ○「ずこうのみかた」では、発想や構想、表現にヒントとなる内容が提示されている。 ○「ひろがるずこう」では、生活に関連した内容や発展的な内容にも触れる工夫がされている。 ○写真が多く掲載されており、児童の目線に寄り添った構成になっている。	
表 記 ・ 表 現	○裏表紙の見開きに教科書の使い方と共に「がくしゅうのすすめかた」が学年の実態に応じて示されている。題材名は、学習内容にあったデザインになっており、児童がワクワクする工夫がなされている。 ○ページの左下には材料、右下には片付け、ふりかえり、QRコードが示されている。 ○つながる学びでは、他教科との関連を明記する工夫がされている。 ○全体的に文字が小さくゴシック体の表記となっているが、その分写真が多く掲載されている。	
総 括	○QRコンテンツが充実しており、アプリを使って作業をすることができる。導入から発想の広げ方、鑑賞、振り返りまで活用することができる。また用具の使い方やさまざまな方からのメッセージも見られる工夫がされている。	

種目【家庭】

書名 項目	新編 新しい家庭5・6	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○3ステップ「見つめよう」「計画しよう、実践しよう」「生活に生かそう、新しい課題を見つけよう」で問題解決学習が展開されており、繰り返し学ぶことで知識及び技能が定着するよう工夫されている。 ○基礎基本をおさえる動画コンテンツがあり、授業だけでなく、家庭での実践でも繰り返し確認することができるようになっている。QRコードを読み込むことで、NHK for school の動画の視聴ができるようになっている。 ○ミシンの使い方や野菜炒め等、実習の手順がページごとに写真や説明で掲載されている。 ○手順が大判化した紙面で、見開きで確認できるようになっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「家庭科の窓」として生活を見つめる4つの視点が題材の初めに示されており、児童が題材に関しての見方考え方がもてるように工夫されている。 ○すべての大題材が3ステップで構成されており、問題解決的な学習ができるように工夫されている。 ○導入では、「トライシート」を活用して、自分の考えを整理したり話し合いをよりよくしたりできるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○ステップ3及び「活動 深めよう」では、学習内容を生活に結び付け、生活の中で生かす視点や家族のための製作を示唆している。 ○「プロに聞く」では、家庭科に関連する職業の人のインタビューが掲載され、仕事や生活への興味が高まるように工夫されている。 ○暑さ寒さに関する題材が一年間で比較できるよう、同学年内で取り扱われている。 </p> <p> <実践的・体験的な活動の工夫> ○「夏休みわくわくチャレンジ」「生活の課題と実践」では、家庭で実践する工夫が示されている。 ○「生活を変えるチャンス」では、課題の設定、計画、実践、まとめ、評価、改善例が載っているため、長期休暇等で児童が自ら取り組むことができるよう実践例が示されている。 </p>	
資 料	<p> ○QRコードから様々なコンテンツを利用でき、児童が端末上でワークシートを利用したり動画を視聴したりできる。 ○SDGs の視点が学習内容と関連していることがわかるマークや説明が示されている。 ○手のアップや実物大の写真、左利きの例も取り上げられ、支援が必要な児童に配慮されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○「安全マーク」や巻頭の「いつも確かめよう」で安全への配慮がされている。 ○環境への配慮を示す「環境マーク」食育・伝統文化を示す「日本の伝統マーク」等、様々な学びと関連づけされている。 ○小題材において、「見つめよう」「考えよう」「工夫しよう」など、学習者に呼びかけるようなタイトルになっている。 ○新出語句が太字、ゴシック体で表したり、読み方が難しい漢字にはふりがながふってあったりと、さまざまな発達特性に配慮されている。 </p>	
総 括	<p> ○「見つめよう」「計画しよう、実践しよう」「生活に生かそう、新しい課題を見つけよう」の3ステップで題材が構成され、問題解決学習をしながら基礎基本が身につくよう工夫されている。 ○動画やワークシートなどの豊富なコンテンツが用意され、基礎的・基本的な内容の定着や思考の整理、表現が図られるように工夫されている。 </p>	

種目【家庭】

書名 項目	わたしたちの家庭科 5・6	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○3つのステップ「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」で学習が展開されており、課題解決学習が進められるように工夫されている。 ○QR コードを読み込むと、動画コンテンツが閲覧でき、実習の動きを見ることができるようになっているため、経験の少ない児童にも視覚的に理解できるよう工夫されている。 ○実習はスモールステップで簡単なものから繰り返し学習していき、自信をもって知識・技能を身に付けられるように工夫されている。 ○実習のページは見開き1ページに横流れで手順が示され、背景にも色が付けられ、特別支援教育の観点にも配慮されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○QRコードから様々なコンテンツをダウンロードし、児童のタブレット端末上でワークシートに書き込みをしたり動作コンテンツで手順のシミュレーションや栄養バランスのチェックなどをしたりと考えたことを表現しやすいよう工夫されている。 ○題材の始めに四葉のクローバーで生活の見方・考え方の4つの視点が示され、自分の生活を見つめ学習に生かせるように工夫されている。 ○ページの各所に配置されている吹き出しには、児童の思考を深めるヒントとなる言葉が載っており、自ら課題を見つけられるよう工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○キャリアインタビューでは、職業観としてのキャリア教育と同時に、持続可能な未来を示すSDGsに触れている。 ○5年生で学んだことを6年生で生かせるような、2年間で学習の踏み重ねができる題材配置になっている。 ○防災マークで防災からの視点を示し、家族や地域の一員として学習を生かせることを示している。 </p> <p> <実践的・体験的な活動の工夫> ○「生活の課題と実践」の取り組みを5つのステップに分け、実践プランの例を示し、生活の中から自分で課題を見つけ、よりよい生活への実践ができるよう工夫されている。 ○「生かす・深める」では、実践に向けての例が写真やイラストとともに多数掲載されており、家庭で取り組むヒントが示されている。 </p>	
資 料	<p> ○QRコードから様々なコンテンツを利用でき、児童が端末上でワークシートを利用したり動画を視聴したりできる。また、学びを広げ、深めるためのPDF資料も用意されている。 ○写真やイラスト、図、表がたくさん掲載されている。また、科学的なグラフや表、調査結果が載っている。 ○栄養素の食品分類表のページが広がり、他のページを開いた状態で閲覧できるよう工夫されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○「安全と衛生に気を付けて実践しよう」では、実習で気を付けることがまとめられている。また、地震がおきたらどうするか、なぜそうするのがQ&Aで示されている。 ○調理実習における食品を切る際の大きさのめやすが、視覚的にわかりやすいよう実物大の写真で掲載されている。 ○「環境マーク」や「消費マーク」等、様々な学びと関連づけされている。 ○家庭科で扱う重要語句は、文章の中で簡潔に示され、同ページ内の豆知識で詳しく説明されている。また、一つの単語が行をまたがないよう読みやすい配慮がされている。 </p>	
総 括	<p> ○3つのステップ「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」で全体が構成されており、問題解決型学習が進められるよう工夫されている。 ○ユニバーサルデザインの観点から、見やすい色使いの他、豊富なコンテンツや資料、動画が用意され、誰にでも使いやすく、基礎的・基本的な内容の定着が図られるように工夫されている。 </p>	

種目【保健】

書名 項目	新編 新しい保健	2 東書
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○様々な事柄に対する対処方法の例示が多くイメージしやすい。また、他教科との関連がわかりやすく示されている。 ○基本的な知識が簡潔にまとめられ、特に大切な部分はゴシック体で読みやすい。 ○「ステップ4」では、本時の学習の要点を記入するようになっている。学習のまとめとして、児童が自分自身で知識を習得できたか確かめることができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○理由や考えを書かせる部分が多い。また、QR コンテンツ（動画や思考ツール）も豊富なため、児童が思考したり、判断したりする際の助けになる。 ○「ステップ3」では、習得した知識を基に身近な事例で考えられるようになっている。自分の生活と関連付けて考えることができる。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「ステップ1」で児童の気付きを引き出し、学習の課題につなげていくことで、児童が「自分事」として、取り組みやすいようになっている。 ○「ほかの人の意見を聞いて、考えたことや分かったことを書く」活動が設定されているため、対話的に課題を解決できるようになっている。 </p> <p> <健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○生活リズムについて様々な事柄がつながっていることが理解しやすくよい。 ○「ステップ4」の後に、多くの資料が掲載されている。命や健康を守るための「スキル」も示しており、健康や安全についての理解をより一層深めることができる。 </p> <p> <生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> ○成長単元で運動の大切さにページを割いており、意図がよく伝わる。 ○感染症やがんの予防、依存症など、社会問題とかかわる説明が丁寧にされている。 </p>	
資 料	<p> ○情報量が非常に多い（まめちしき、相談窓口やスポーツ選手のことば等）。 ○「だれもが安心して生活できる社会」として街でよく見かけるマークが紹介されている。共生社会に向けた気づきを促すことにつながる。 ○QR コードから、動画資料を直接開ける。動画のページには、一覧に戻るボタンはない。その他の資料は、章毎、他学年毎に表示されている。 ○自転車安全利用五則（中央交通安全対策会議 交通対策本部）が法改正前のもの。「13才未満は、ヘルメットを着用」の表記あり。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○文字が見やすい。登場人のコメントが青ゴシックでよく目立つ。 ○行間や余白を適度にとっているため、見やすい。UD フォントを使用し、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色になるよう配慮している。 ○3・4年生「体の発育と健康」では、1年生、6年生、成人の体つき絵と写真で示している。 </p>	
総 括	<p> ○書き込み部分が多く、教科書+タブレット等で、学習を深めることができる。 ○家庭や社会とのつながりを意識した資料やコーナーが多く、学習を通して、日頃の生活を見直すきっかけにつながると感じる。 ○1時間4ページになり、構成が同じになっているため、児童が見通しをもって学習できるようになっている。 ○毎時間の終わりに次の時間の予告があるため、反転授業等でも活用できる。 </p>	

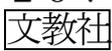
種目【保健】

書名 項目	新版 たのしい保健	4 大日本
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○ふりかえり（まとめ）ページがあり、学習内容の定着には有効である。 ○QRコードで小单元ごとのまとめの問題がダウンロードできる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「ここで学ぶこと」が明確である。また、「つかもう」の導入部分では、イラストを見て、まず思考・判断させる形式をとっている。 ○「考えよう」「話し合おう」「調べよう」では、資料を基に思考し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりして、学習を深められるようになっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元の最初にある「学習ゲーム」や豊富なウェブコンテンツ（動画・シミュレーション等）によって、意欲的に取り組めるようになっている。 ○「折り込みページ」を用いて思考場面のページを覆うことで、児童が「つかもう」に集中して取り組み、主体的に課題を見つけていくことができる。 </p> <p> <健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○ミニ知識や単元末の「もっと知りたい」には、学習内容に関連した情報が豊富に掲載されている。発展的な内容も取り上げているため、個に応じて学習内容を深めることができるようになっている。 ○QRコードでつながる「たのしい保健ウェブ」では動画やリンクが充実している。 </p> <p> <生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> ○「健康」であるからこそ「夢をかなえられる」という考えをもとに、夢に向かっての目標を立てさせている。中学校の学習とのつながりもマークで示されている。 ○AEDや胸骨圧迫の他に、公衆電話の使い方なども紹介されており、子どもの実情を理解している印象がある。また、「家・地域でほけん」では、学習したことを家庭や地域において活用できるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○写真やグラフ等の資料が豊富。バランスよく配置されている（2021年以降の資料が多い。）新型コロナウイルスについて触れている。 ○「活動を行うときのヒント」や「1時間の学習の主な流れ」が示されている。 ○保健の見方・考え方を働かせるための読み物が豊富である。 ○単元の最初にQRコードがある。いつも同じ場所にあるので、見落としがしない。1時間ごとのデジタル資料がまとまって表示される。資料を検索しやすい。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○ページ（単元）ごとの色の使い方の違いがはっきりしている。 ○カラーユニバーサルデザインが他社と比較して効果的である。目に優しく、読み取りがしやすい。文字も少なく大きいため読みやすい。 ○1ページ見開きで完結しており、学習内容の振り返りがしやすい。 ○障害のある方や外国籍の方も描かれており、多様性を意識して作られている。 </p>	
総 括	<p> ○文字が大きく、色も鮮やかすぎないため、読みやすさという点でプラスポイントの大きい教科書である。本編の学習以外に「もっと知りたい」コーナーがとても充実しており、ここを活用して児童の思考を高めることができると思われる。 ○1時間1見開き（2ページ）を基本に、統一されたレイアウトになっているため、児童が見通しをもって学習できるようになっている。 ○3・4年生「体の発育・発達」で「さまざまな性」に触れている。3・4年、5・6年共に、相談窓口の電話番号を紹介している。 </p>	

種目【保健】

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">新 小学校保健</h1>	50 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大修館</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「もっと学びを広げよう」のページで、実生活に生きる情報が多く紹介されている。 ○学習の振り返りで重要な語句を穴埋め式で覚える形式になっている。 ○基礎的・基本的な知識・技能が簡潔にまとめられ、重要語句は太字で示されている。 ○1時間毎にクイズが設けられ、タブレット端末でコードを読み取ることで使用できる。児童が楽しみながら、自身の学習の定着を確認することができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○まとめの部分に自分の考えだけでなく、理由や友達の意見からの気づきなどを記述する部分があり、さらなる思考を促している ○キャラクターの台詞が思考のきっかけとなり、児童が保健の見方・考え方を働かせることができるようになっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「課題をつかもう」の内容が明確。3ステップの学習過程で見通しを立てやすい。 ○各章の扉のページでは、学習内容に関連のある著名人が取り上げられている。児童が、興味をもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 </p> <p> <健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○「専門家へのインタビュー」や「体育の窓」で様々な視点からの話や、詳しい説明などを読むことができる。 ○1日の生活リズムの大切さが図表からとてもわかりやすい。納得できる。早寝。早起き。朝ごはん、運動の大切さが科学的に子どもにも伝わる。 </p> <p> <生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> ○感染症に対する伝え方や、説明などが小学生にとって捉えやすい。 ○現代的な課題にも触れており、実生活でも生かしやすい。 (例) エレベーター内で身を守る行動、スマホ・ゲーム依存、インターネット犯罪の防止等 ○「病気の予防」では、地域の健康に関わる情報を収集し、分類・比較する学習が取り入れられており、身の回りにある健康を守る活動について知ることができる。 </p>	
資 料	<p> ○ウイルスやスマホ・ゲーム依存などの資料が充実している。写真資料が実際の学校現場に即している。 ○QRコードで様々な関連サイトにとぶことができ、動画資料も直接開ける。 ○写真やイラストなどの資料が豊富。身の回りで見かけるポスター等から、健康や安全について考えさせている。AEDやASUKAモデル等にも触れている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○図表と事例と登場人物で絵のタッチが異なり、何を伝えているかが判断しやすい。 ○UDフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色になるよう配慮している。学習の流れのゴシック文字が読みやすい。 ○単語や文節が行をまたがないように改行位置が工夫されているので、読みやすい。 ○個人差や人権、共生への視点、多様性の尊重などを意識した表記になっている。 </p>	
総 括	<p> ○絵図・写真・文章の配置バランスがよく、読みやすい教科書である。書き込み部分は最小限(まとめ・ふりかえりが中心)であり、思考活動や話し合い活動を柱にして、学習を進めるスタイルが予想される。 ○「体育の窓」を設けてあり保健と体育を関連付けることで、体育科の目標である「心と体を一体として捉える」ことにつなげようとしている。 ○3・4年の巻末に「防犯」「地震への備え」「人とのかかわり」等の発展資料がある。 </p>	

種目【保健】

書名 項目	新 わたしたちの保健	207 
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○語句の説明が随所であり、初出の言葉でもわかりやすく説明されている。 ○「学習のまとめ」では、重要な語句や文については、フォントを変えて目立つようにしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○グラフやデータをもとに考えさせる部分があり、判断力の育成に効果的である。 ○毎時間の終末に、自身の生活をふり返り、学習したことをどのように生かしていくかを考えて記入する時間が設けられている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○アスリートや職業人からのメッセージが児童の意欲づけにつながる内容である。 ○個性を大切に、その人らしさを大切にというメッセージを感じる。 </p> <p> <健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○「もっと考えよう課」のコーナーの内容は児童の興味を引くものとなっている。 </p> <p> <生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> ○「わたしの〇〇宣言」が、健康の保持増進を意識させるコーナーとして位置づけられている。 ○Mission3「もう一歩先の自分へ」で、自分の健康の大切さに目を向けさせている。 ○各章末で学習内容に関連する「〇〇宣言」を考える活動が設けられている。学習したことが実生活につながるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○資料が目ですっと入ってくる。また写真も大きく使われており、資料説明の文字の大きさも見やすい。 </p> <p> ○水の事故に関する資料が多く掲載されている。 </p> <p> ○「大人も子供もヘルメット」の表記有。自転車の安全点検項目、自転車保険にも触れている。 </p> <p> ○QRを読み取ると、文教社のデジタルコンテンツ一覧のページが開く。学年や資料名から自分で資料にアクセスしにいくつくりになっている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○エピソードやコンプリート、ステージ、クリアーが全て英語表記である。 </p> <p> ○カラーユニバーサルデザインをふまえた配色になるよう配慮している。(濃い色が多め) </p> <p> ○記入欄は、罫線があり書きやすくなっている。行も多いので、たくさん書きたい児童にとっては、良い。 </p>	
総 括	<p> ○写真や絵図が大きめに掲載されているので、資料から読み取る学習は、取り組みやすい印象である。单元ごとに学習のステップが明示されており、教師目線では取り扱いやすい教科書であるといえる。授業を行う際には、教科書以外にワークシート等が必要となるであろう。 </p> <p> ○写真や絵が多く、児童が視覚的に理解しやすくなっている。 </p> <p> ○ページのあちこちに配置されたキャラクターや台詞が、学習を進めていく上でのヒントになっている。また、保健・安全に関わる、様々な表示や標識を取り上げ、目的や意味を示しており、知識・理解が高まる教科書となっている。 </p>	

種目【保健】

書名 項目	小学 保健	208 光文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スクリーンタイムについての言及が詳しい。現代的課題を捉えている。 ○毎時間のまとめとなる基礎的・基本的事項には★マークが付いている。特に重要な用語等は、太字で示されている。 ○毎時間、動画や資料が用意されている。紙面の情報に加えて、動画での説明があり、児童が知識・技能を習得しやすくなっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人との接し方を考えるページがわかりやすく、自分と向き合って考えられる。 ○児童が思考・判断・表現したことを記入する欄が豊富に設けられている。 ○「学んだことを生かそう」では、自分の生活をふり返り、学んだことを実生活で生かせるようにしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○单元ごとに4コママンガからの導入になっており、学習のイメージが持ちやすい。4コマの疑問が子ども目線のため、児童も「そうそう」と共感できる。 ○毎授業、学習の始めに、自分の身の回りのことを振り返るようになっていて、児童が自分の健康課題に気付き、解決のために進んで考えられるようになっている。 <p>＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「広げよう 深めよう」のコーナーにはグラフやポスター、イラストで、さらに学習を深める工夫が施されている。 ○QRコード資料が豊富。全ての小单元に、動画や補助資料が用意されており、発展的な学習にもつなげることができる。 <p>＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生かそう」のテーマが具体的で、これからどうするかについて考えを持ちやすい。 ○3・4年生、5・6年生共に、巻末にSDGsの特集ページを掲載している。保健の学習内容を生かし、自分にできることを考えて記入できるようになっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料をもとに文字による説明が丁寧に行われている印象。ただし全体の分量は少なめである。「まめちしき」コーナーで学習の補足ができる。 ○インターネット依存や新型コロナウイルス（予防や差別的防止等）についての資料等、現代的で、児童の生活に関連する資料が豊富である。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に余裕のあるつくり。イラストが過度に簡易化されておらず目に入りやすい。薄いブルーと薄いオレンジが基調で、落ち着いた読める色彩である。 ○UDフォントを使用し、配色についても配慮されている。 ○原則、文節の切れ目で改行し、児童が読解しやすくしている。 ○単元の最初にQRコードがあり、1時間毎にデジタル資料がまとめて表示される。いつも同じ場所にあるので、見落としがない。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○4コマ→課題の設定という流れは、子どもにとって理解しやすい。また、「話し合い」学習が多く設定されており、児童が主体的に学習ができるつくりになっている。広げる・深めるためのコーナーは、自らの生活と向き合う題材が多く使われており、児童の興味・関心につなげやすい。うまく活用すれば効果的である。 ○「心の健康」について学習する单元では、コミュニケーションについて考える資料がある。 	

種目【保健】

書名 項目	新 みんなの保健	224 学研
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○文字による解説はシンプルである。書き込むことで学習内容が習得できるつくりになっている。また、QRコードでふりかえりシートがダウンロードできる。 ○AEDや胸骨圧迫の説明がわかりやすい。実際のイメージがしやすい。 ○3・4年生「体の発育・発達」で「性についての心の多様性」に触れている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○絵や図から発見したり考えたりする課題が多く、記入スペースも確保されている。 ○毎時間、「①自分で考える→②友達やみんなと考える→③身に付けたことを生かす」という学習の流れを繰り返す構成になっている。 ○「体の発育・発達」では、デジタルコンテンツを活用することで、1人1人の児童の身長伸びを簡単にグラフ化できるようになっている。 ○ふり返りで「誰かに伝えたいと思ったことを書く」という活動が設けられている。児童が相手意識をもち、学習したことを自分の言葉で表現する機会になっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○地域とのつながりを考えさせる問いが随所にあり、人間どうしのつながりを重視していることがわかる。 ○各章末に児童が自身の学習をふり返り、自己評価できるようになっている。 </p> <p> <健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○「ほけんのはこ」では、より学びを広げたり、深めたりできるような資料が提示されている。「プチ」では、詳しい説明や関連情報を紹介している。 ○「かがくの目」では、実験や拡大写真等を示している。健康・安全に関する知識について、児童が科学的に理解・認識できるよう工夫されている。 </p> <p> <生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> ○喫煙・飲酒・薬物に関する内容にページ数を割き、及ぼす害をデータや資料で丁寧に紹介している。 ○「おうちで ちいきで」では、家庭や地域で取り組みたい内容が示してある。 </p>	
資 料	<p> ○グラフが鮮やかで、内訳を読み取りやすい。また、それぞれの資料が大きく、中学年でも理解しやすい。 ○デジタルコンテンツが豊富で、児童の理解や意欲を高めることができる。 ○QRコードから、直接該当資料を開ける。PDFでもPNGでもダウンロード可能。一覧に戻ることで、他のデジタル資料も閲覧しやすい。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○登場人物のセリフが読みやすい。青文字をつかって強調をしている。 ○UDフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色になるよう配慮している。色を多用せず、全体を通して統一した色を使用している。 ○児童が自分の考えを記入するスペースに罫線が引いてある箇所が多く、記入がしやすい。記入スペースも十分に確保されている。 </p>	
総 括	<p> ○ページのつくりがわかりやすくシンプルであり、基本的に教科書に書き込みながら学習を進めることができる設計になっている。思考場面が多いため、自分の意見が持てない一部の児童については、扱い方を工夫する必要がある。 ○毎時間の構成が「導入→自ら取り組む→対話的な活動→活用」という構成になっていて、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる。 </p>	

種目【英語】

書名 項目	NEW HORIZON Elementary	2 東書
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○各単元で、チャンツや発音練習などの技能を高めていく活動と、学習のまとめとなる活動が分かりやすく示されている。 ○単元目標と学習指導要領に関連した3観点の目標が冒頭に明示されている。また、それに対応する振り返りも各単元末に設定されている。 ○各 Unit の終わりに Sounds and Letters という音と文字の関係を整理するページがあり、読むことに対する抵抗感を少なくする工夫がみられる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○コミュニケーションを行う「Your Goal」の活動では、「Before 発表で気をつけたいこと」と「After 活動の振り返り」を記述する欄があり、思考を深める工夫が見られる。 ○単元末に設定されている「Over the Horizon」では、海外の映像や文化などが多く紹介され、海外や日本の文化についての興味や関心を高められると思われる。 ○マッピングなどの思考ツールを用いて内容を整理してから伝えるような工夫が見られる。 ○各 Unit の始まりのページには、会話の場面をイラストが大きく載っていて、英語を聞いてイラストに場面の番号を書いたり内容を推測したりする工夫がある。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の4つのまとまりの中で、「Starting Out」という単元導入のページ以外は、すべてのページで振り返りを行う活動を設定してある。 ○登場人物が様々な国や地域から選ばれており、国際色豊かであるとともに、子供たちになじみのあるイラストで描かれている。障害のある子供の登場など、人権感覚の育成にも配慮されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○友達の誕生日を確認しながらプレゼントカードを贈ったり、日本各地の観光案内CMを作ったりと、児童が主体的に取り組めるような目的や場面、状況を設定し、言語活動を充実させる工夫が見られる。 ○「My Picture Dictionary」にある「二次元コード（QRコード）」を読み取ると、紙面で示されている単語だけでなく、別の単語も検索することができ、コミュニケーションをする際に、自分の表現したいことを表現しやすくなることが期待できる。 ○気付いたことを書いたり、自分の伝えたいことを書いたりする内容が多く、活動で自分の考えや気持ちを伝えられるような工夫がある。 </p>	
資 料	<p> ○各単元の導入のページでは、見開き1ページで写真やイラストが大きく掲載されており、児童が興味や関心を高められる工夫が見られる。 ○デジタルコンテンツが多く用意されていて、児童が興味をもちそうな資料なども充実している。 ○付属の「My Picture Dictionary」（別冊）では、語彙だけでなく各 Unit で学んだ表現も調べることができる。QRコードで音声を繰り返し聞くことができる。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○「Let's listen」、「Let's Try」などの各課題が英語表記だけでなく、アイコンでも示されており、苦手な児童も活動を理解しやすくなると思われる。 ○活字の書体については、児童が実際に書くときに近い形の書体に統一されている。また、4線のベースとなるライン（第3線）は青で示され、幅はベースとなるラインとその1本上のラインの幅が大きく開いている。 </p>	
総 括	<p> ○各単元は①「Starting Out」で単元の内容に慣れ親しみ、②「Your Turn」で学習内容の定着を図り、③「Enjoy Communication」でコミュニケーションを楽しみ、④「Over the Horizon」で世界や日本の文化に触れる内容になっており、4つのまとまりで構成されている。 ○ページ数が少なく、軽量の紙が使われている。 </p>	

種目【英語】

書名 項目	<h1>Junior Sunshine</h1>	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学習した英語が身に付いたか、英語で何ができるようになったかをペーパーテストとパフォーマンステストで確認するために、年3回「Let's Check」というページが設定されている。 ○各単元の2、4、6ページの下部にSmall Talkの会話例が紹介されており、単元で使用されている単語や表現の定着に効果があると思われる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元の導入のページに「Word Book」にある表現の紹介があり、表現するための支援につながっていると思われる。 ○各単元の第6時では「記録をもとにグループを作りましょう。そして、分かりやすく伝えるために内容を整理しましょう」などのように、話す内容を整理する活動をペアやグループで行う設定になっていて、表現力を高めるために効果的だと思われる。 ○単元の終わりにStory Timeという同世代の世界の子供の読み物教材を用意し、自分で考えて作成した英文と比較できるようにしている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元冒頭の見開きページに単元で身に付けたい力を「Goal」として示し、その達成にむけためあても順を追って示しているため、児童は見通しをもつことができ学びやすさにつながっていると思われる。 ○巻末の「CAN-DO チェック」では、各単元の目標に即して、児童に分かりやすく表されており、自分の成長や課題に気付き意欲的に学習に取り組む態度を育むことに効果があると思われる。 ○6年生ではSDGsの目標と日本の取り組みの例をレッスンごとに示し、教科横断的な工夫がみられる。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○教科書の冒頭に「授業で使える20の表現」というページがあり、クラスルームイングリッシュが場面ごとに紹介されている。 ○文字指導については、単元の序盤で英語をたくさん聞く活動やゲームなどで何度も使う活動が設定され、音声で慣れ親しんだ英語を文字と結び付け、最後は手本や例文を見ながら書く活動になっており、児童にとっては学びやすい構成になっていると思われる。 ○Activityという言語活動の場面では、観点別学習評価の3観点を示し、指導と評価が一体化する工夫がみられる。 </p>	
資 料	<p> ○デジタルコンテンツが多く用意されていて、授業で取り組む課題のアニメーションや多文化理解のための資料動画を視聴することができる。 ○巻末に切り取り式のカードが用意され、言語活動が円滑に進む工夫がみられる。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○活字の書体については、児童が実際に書くときに近い形の書体に統一されている。また、4線のベースとなるラインは青で示され、幅はベースとなるラインとその1本上のラインの幅が大きく開いている。 ○イラストや写真、文字が大きく紙面いっぱいに記載されている。 </p>	
総 括	<p> ○各単元が導入1時間、インプットを中心とする活動を4時間、相手に自分のことを知ってもらうために伝える内容を整理する活動を1時間、そして目的や場面などに合わせて実際に表現し合う活動を2時間の構成になっており、各ページの上端に本時は何時間目かが示されていて、児童も教師も授業の見通しがもちやすいと思われる。 ○「Let's listen」などの各課題の日本語の文章がとても具体的で活動がしやすい。 ○自分の考えや気持ちを伝え合えるように、目的・場面・状況の設定に工夫があり、コミュニケーションを図る資質・能力の育成に力を入れている。 </p>	

種目【英語】

書名 項目	<h1>CROWN Jr.</h1>	15 三省堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○各レッスンの「Step」は、導入を行う「Panorama」、言語活動を通して目標となる表現を学習する「Part」、まとめの活動を行う「Step-up」で構成されており、語句や表現がスモールステップで学習できると思われる。また、インプットからアウトプットの流れが構築されている。 ○動画を見て、英語を聴いて、伝え合う活動を行い、読んだり書いたりする流れが各 Lesson、各 Part で共通していて、授業が安定して展開できる工夫がみられる。 ○Sound Chants、Word Chants、Phrase Chants とチャンツが多く、語彙や表現に自然に慣れ親しむことができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○目的や場面、状況を考えて表現する活動がある「JUMP」では、導入である「HOP」で考えた自分の目標について再度考え、よりよい表現について自分自身の学びのゴールを設定するようにしている。 ○各レッスンの振り返りで、レッスンの内容に即した振り返りだけでなく、「このレッスンでくふうしたことはどんなことですか。友だちがしていたことで、まねしたいことはありましたか。」という友達のよいところを考えさせ、自分の表現に生かすための工夫が見られた。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各ユニットを構成する導入段階の活動「HOP」では、児童が「今の自分の力」を把握すると共に、単元最後のまとめの活動「JUMP」でどのようなことができるようになりたいか、自分の学びの見通しができるように工夫されている。 ○友だちと共に行う活動が多く取り上げられており、他者意識を育む機会になると思われる。 ○「世界の小学校」というページを設け、同年齢の児童の学校生活を比較することにより、異文化に興味・関心を持てるような工夫がみられる。 ○「英語でこんなことができた！」というページを設け、簡単に振り返りができる工夫がされている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各レッスンの「Step-up」や「Jump」では、自分で選んだ英語で表現する構成になっており、主体的な学びが行われやすくなっている。また、各活動は既習事項を生かして行う活動内容になっている。 ○年3回のJUMPでは、学習した表現を使う言語活動が設定されている。二次元コードで目指す姿を児童が確認できるようになっており、指導者にとっても評価しやすい。 </p>	
資 料	<p> ○各 Unit の導入「HOP」のページでは、見開き1ページで写真やイラストが大きく掲載されており、児童が興味や関心を高められる工夫が見られる。 ○各ユニットの最後に「Story Time」が位置付けられ、「ケンの冒険」と「世界のお話」を読むことができる。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○活動が多く設定されており、見やすく紙面上に記載されるために、間隔を広めにとり、文字やイラストが小さめに設定されている。 ○活字の書体については、児童が実際に書くときに近い形の書体に統一されている。また、4線のベースとなるラインは青で示され、幅はベースとなるラインとその1本上のラインの幅が大きく開いている。 </p>	
総 括	<p> ○年間に設定された3つの言語活動に向かって学びを積み重ねていく単元構成になっている。 ○各ユニットは「HOP」「STEP」「JUMP」で構成されており、児童に負担ががいがいよう、スモールステップで学びが進んでいくようになっている。 ○「読むこと」「書くこと」についての学習は、「Let's Read & Write」という活動で各レッスンの中に小出して位置付けられている。 </p>	

種目【英語】

書名 項目	<h1>ONE WORLD Smiles</h1>	17 教出
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○各単元の冒頭にめあてを明示し、終末には振り返りをするように設定されている。 ○主な単元構成として「Let's Watch」や「Let's Listen」などの、見たり聞いたりする活動を多く取り入れてあり（インプット）、その後「Activity」や「Let's Write」などの話したり書いたりする活動（アウトプット）に移行している。 ○「友達の発表を聞くとき、どんな聞き方をするといいかな」など Qookie（クッキー）というキャラクターによる各活動についてのワンポイントアドバイスが多く記載されている。 ○Sounds and Letters のページを設け、英語とカタカナ語の違いに注目し、英語特有の発音が身に付けられる工夫がなされている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○話す活動、特にやり取りについての例文では、児童が自分自身のことを言う箇所が青く強調されており、実際に表現する際の支援になるとと思われる。 ○「Think」では、言語や文化、コミュニケーションなどについて自分自身の気付きや思考を記述する活動が設定されている。 ○見開きのページで、目標となるコミュニケーションの目的や場面、状況が一目で分かるように図で示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○教科書にある「二次元コード（QRコード）」を読み取ると、「まなびリンク」というデジタルコンテンツを活用でき、学校での個別学習や協働学習だけでなく、家庭での学習の充実が図れ、児童一人一人の理解度や意欲に応じた学習が可能であると思われる。 ○児童に身近な学校や家庭、地域などの話題から徐々に国内や海外へと題材の視点が広がっていく工夫が見られる。 ○手話や地図記号などが取り上げられており、他教科とつながりをもって学びを進めるようになっている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の冒頭で「単元の目標」を設定し、「英語を使って何ができるようになるか」を明らかにし、単元末に目標達成にむけての発表ややり取りをする構成になっている。単元の目標に即したコミュニケーションの活動が進められると思われる。 ○6年生巻末の My Book は言語活動がまとめてポートフォリオ化されており、学習成果物として振り返りや評価がしやすくなっている。 </p>	
資 料	<p> ○シールやカード、ワークシートなどの付録が巻末にあり、それらを活用した作業的・操作的な活動が多く設定されている。 ○写真やイラストと、アルファベットの大きさについては、活動の内容に応じて強調したいものを大きくはっきりと示している。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○「Let's listen」、「Activity」などの各課題が英語表記だけでなく、アイコンでも示されており、苦手の児童も活動を理解しやすくなる。 ○活字の書体については、児童が実際に書くときに近い形の書体に統一されている。また、4線のベースとなるライン（第3線）は青で示され、幅は上から4：5：4となっている。 </p>	
総 括	<p> ○個人での課題の取組や発表、ペア・グループで協働しながら制作物を完成させる学習など、学習内容に応じて、活動の設定に工夫が見られる。 ○シンプルな構成になっているので、これを基本に児童の実態や興味関心に合わせて指導することができる。 </p>	

種目【英語】

書名 項目	<h1>Here We Go!</h1>	38 光村
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学習の流れや何ができるようになるかの見通しがもてるように「学年の目標」やCAN-DO リストが設定されている。 ○目次にある各単元名の隣には、5領域のうち重点的に扱う領域がアイコンで示されたり「Goal」が明記されたりしている。 ○「Can you ride a bicycle? 最後は声をしっかり上げよう」など、ページの下部に単語や文の発音に関わるアドバイスや注意点が書かれている。 ○言葉について考えようのコーナーを設け、言語の使用場面と働き、日本語と英語の違い、文構造の違いなどが分かりやすく学べるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「まとめ」の言語活動を3か所ずつ設定してあり、そこまでの単元で学んできた表現を「世界の友達」で聞き取り、「You can do it」で発信する構成になっている。「You can do it」では、主に「話すこと」や「書くこと」の領域の達成度を見取れるようになっている。 ○既習表現を生かした言語活動に取り組みやすくするために、実際の Small Talk のきっかけになるミニアニメが視聴できたり、会話をより豊かにするための「Plus One」の活動では文例が紹介されたりしている。 ○コミュニケーションで大事なポイントややり取りで使える表現などがまとめてある。場面ごとに使える表現も整理してあり、実際のやり取りの場面で使える工夫がある。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の導入に、教科書に登場するキャラクターが互いの考えを受け入れながら成長していくアニメが設定されている。 ○各単元の「ふりかえろう」では、学習内容の定着に関わる振り返りの項目だけでなく「くふうしたことや次に生かしたいこと」という項目があり、今後の学習への意識を高める工夫が見られる。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各単元で「Story」や「Let's listen」など聞く活動が多く設定されている。 ○「Let's try」や「Plus One」では、会話のやり取りを続けやすくするポイントが紹介されている。 ○教科書の「二次元コード（QRコード）」を読み取ると、コミュニケーションをしているモデル映像が視聴できる。 ○「All About Me」という自分のことをまとめて表現できるポートフォリオのページがある。 </p>	
資 料	<p> ○各単元の導入「Hop!」のページでは、見開き1ページで写真やイラストが大きく掲載されており、児童が興味や関心を高められる工夫が見られる。 ○様々な活動に取り組む「Step」のページでは、写真やイラストは小さくなり、文字が大きくなり読みやすくなっている。 ○各単元のまとめの活動をする「Jump」のページでは、実際に活動をしている様子の写真が用いられ、活動の見通しがもちやすい。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○「Story」や「Let's listen」などの各課題が英語表記だけでなく、アイコンでも示されており、苦手の児童も活動を理解しやすくなると思われる。 ○英語表記は統一されている。また、本文の書く活動では、4線のベースとなるライン（第3線）は青で示され、幅はベースとなるラインとその1本上のラインの幅が大きく開いている。 </p>	
総 括	<p> ○すべての単元で「Hop!」（導入）→「Step1」（課題1）→「Step2」（課題2）→「Jump!」（まとめ）という構成になっている。また、授業時数もすべて7時間で設定されており、統一性が見られる。 ○聞く活動から話す・書く活動に進む固定の流れが分かりやすく、流れに沿って学習すれば確実に力が付くように構成されている。 </p>	

種目【英語】

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">Blue Sky elementary</h1>	<h1 style="text-align: center;">61</h1> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">啓林館</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学習の流れや何ができるようになるかの見通しがもてるように単元の目標とそれぞれのページの目標と振り返りが設定されている。 ○各単元の「Chant」では、強勢の意識を高めるために、強く発音する箇所に印が付いていたり、使用表現の中の児童が自分のこととして変更して発音する箇所が四角で囲まれたりしている。 ○Let's Read and Write のコーナーでは、混同しやすい音や文字をまとめて示し、書くことによって知識・技能の定着を図っている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元の導入の「Introduction」や「Watch the Scene」「Words and Phrases」などでは、イラストや映像を手がかりにして、聞こえた英語の意味を推測できるようになっている。 ○コミュニケーションを行う活動のページでは、「Hana が Sato 先生に伝えるときに、どんなことに気を付けていたかな？」などのように、コミュニケーションを行う際に大切なことを考えさせている。 ○Look Back というページで、英語使うことができるようになった場面を振り返るとともに、実際に使いたい場面を想定させる工夫がみられる。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元の最後に設定されている「Did you know?」では、児童が興味や関心を抱くような外国の文化を紹介している。教科書に掲載されている情報だけでなく、「雑学クイズ」も用意しており、児童が積極的に学ぶ意欲が高まることが期待される。 ○教科書にある「二次元コード（QRコード）」を読み取ると、デジタルコンテンツを活用でき、学校での個別学習や協働学習だけでなく、家庭での学習の充実が図れ、児童一人一人の理解度や意欲に応じた学習が可能であると思われる。 ○世界地図や外国の文化を紹介する内容・写真が多く、世界各国の文化や生活に興味を持てるようになっている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○見開き1ページで「コミュニケーションに大切なこと」という話し方（[発表] [やり取り]）と聞き方についてコミュニケーションのポイントや大切な点を、表現例を用いて掲載している。 ○ページの下部に「ジェスチャーなどをつけると、より相手に伝わりやすくなるよ」など「Tips」というコミュニケーションのワンポイントアドバイスが掲載されている。 </p>	
資 料	<p> ○各単元の導入のページでは、見開き1ページで写真やイラストが大きく掲載されており、児童が興味や関心を高められる工夫が見られる。 ○各単元のまとめの活動をする「Activity」のページでは、実際に活動をしている様子の写真が用いられ、活動の見通しがもちやすい。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○単元名と各活動、本文で英語表記が異なっている。また、4線のベースとなるラインは青で示され、幅は上から5：6：5となっている。 ○文と文の行間にゆとりがあり、文章が読みやすい。 ○イラストや写真が多い。一方、文字は大きくない。 </p>	
総 括	<p> ○各単元の導入では、見開き1ページの扉絵があり、「Introduction」でクイズのような活動を行ったり、会話を想像したりしている。また、その後の「Step1,2」では、インプットと少しのアウトプットの活動が設定されている。「Step3」では、様々なアウトプットの活動が位置付けられている。 ○親しみやすいイラストが用いられており、小学生の実態に応じていると思われる。 </p>	

種目【道徳】

書名 項目	新しい道徳	2 東書
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の冒頭に主題名が記載されている。また、内容項目の4つの視点をマークで表している。 ○目次の次に、道徳の学習を始めようとして、イラストで授業の流れを示し、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしている。「気づく」「考える」「広げる・深める」といった学習の流れをつかめるようにしている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめの防止は、ていねいに繰り返し取り組めるように、いじめの場面を直接的に扱う教材と、関連する価値から間接的に考える教材を組み合わせた「いじめユニット」とし、全学年2つの教材を連続して扱えるようにしている。また、全学年同じ時期に配当し、学校全体でいじめ問題に向き合うことができるようになっている。いじめ防止週間や人権週間などに合わせて扱うこともできるようになっている。 ○「情報モラル」を扱った教材は全学年にあり、情報化社会での生き方を考えられるように、発達段階に応じた教材となっている。 ○SDG sを知って考えられるように、教材としてだけではなく、「つながる広がる」といった学年に応じたコラムとして載せている。 <p><発達の段階に即しつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○低学年を中心に、雄大な写真を大胆に使ったビジュアル教材がある。QRコンテンツの動画とあわせて見ることができるようになっている。 ○全学年に、安全に関する教材とコラムを組み合わせた「安心・安全ユニット」を設け、児童の発達段階に応じた安全教育ができるように取り入れている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の問題意識を喚起し「主体的な学び」ができるように、キャラクターによる吹き出しから、その教材で「みんなで考えたいこと」を投げかけている。 ○教材の終わりに「考えよう」が記載され、その教材で道徳的価値に最も迫ることができる中心発問や、自分を振り返り自己を見つめ今後の生き方に生かしていくための発問が載せてある。 ○「深い学び」を実現できるように、「体験的な学習」として全学年に役割演技のページを設けたり、「問題解決的な学習」として問題を見つけて多面的・多角的に考えながら話し合う学習指導過程を全学年で提案したり、「考えるためのツール」として自分の考えを可視化するさまざまな思考ツールを紹介したりしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○個別最適な生美を実現する3つのコンテンツとして、QRコンテンツを紹介している。①朗読音声②スライドショー（紙芝居）③デジタルノートである。全ての教材に用意しており、障害のある児童や外国人児童など、児童の特性に合わせた教材の提示方法が選択できるようになっている。 ○デジタルノートは、児童一人一人がICT端末を活用して、感じたことや考えたことなどを記入することができ、データを蓄積して見返すこともできるようになっている。また、「学習の記録」として、教師が学習を振り返るアンケートを児童の端末に配信し、データを蓄積し一覧することで一人一人の成長の様子を見取ることができるようになっている。 ○学期ごとに振り返り記録するワークシートをダウンロードすることもできる。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の文字の大きさや行間を変えるなど、低学年・中学年・高学年で児童の発達段階に配慮されている。また、ロービジョン（弱視）、ディスレクシア（読み書き障害）に配慮されたユニバーサルデザインフォントの教科書体が使用されている。 ○低学年では、教材の理解を助ける挿絵が大きく掲載されている。 ○表紙の絵は、道徳の学習で育まれるさまざまな「心のちから」を描いており、学年に応じた「どんな心のちから持ちになりたいか」を考えられるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○児童がICT端末を活用して、友達同士での話し合いを深めたり、自己を見つめたり振り返ったりできるようになっている。情報社会に生きる児童にとって、興味の引くよう工夫されている。 ○中学年以上は文章の長い教材が多く、道徳的価値に迫れるところまでいくのかが気になる。 	

種目【道徳】

書名 項目	小学道徳 はばたこう明日へ	17 教出
内 容	<p> ＜道徳科の目標に関わる工夫＞ ○各学年の巻頭には、道徳の学びへの意識を高めながら、見通しをもって学習に取り組めるように、「学びのガイダンス」が設けられている。 ○教材の冒頭に主題名が記載されている。また、内容項目の4つの視点をマークで表している。 ○教材の冒頭に導入を設け、目的をつかんでから学習に入れるようにしている。 </p> <p> ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ問題」については、児童それぞれがしっかりと向き合っていることができるように、全学年で重点テーマとし、ユニット構成となっている。 ○「情報モラル教材」では、情報を扱ううえで配慮すべきことやルール、インターネット上で気をつけることなど、全学年で重点テーマとして、ユニット構成となっている。 ○「人権上の配慮」として、登場人物やキャラクター、写真やイラストなど、性別の偏りがないようにしている。また、「LGBTQへの配慮」として、LGBTQについて考えることができる教材を設けたり、イラストに配慮したりしている。 </p> <p> ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○「情報モラル教材」は、情報を受ける立場、情報を発信する立場、さらにインターネット上での情報の扱い方へと、発達段階に応じた生活環境の広がりにも合わせた題材を扱っている。 ○低学年は物語教材中心、中学年は生活教材中心、高学年は人物教材中心というように、児童の発達段階に即した内容や文章量の教材が選択されている。 </p> <p> ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○演じて考える「体験的な学習の教材」を全学年に取り入れることで、自分事として考えることができるようになってきている。また、道徳的価値に対する理解を深めることもできるようになっていて、体験することで見えてくるように工夫されている。 ○「学習のてびき」は、児童が考え、議論しながら、自分の生き方についての考えが深められる発問で構成されている。また、「やってみよう」「つなげよう」「問題を解決しよう」を活用することで、多様な学び方をすることができるようになってきている。 ○登場人物の悩みや葛藤、心の揺れなどに対する児童の多様な意見を引き出し、議論が活発になるように、教材文の終わりを工夫している。 </p>	
資 料	<p> ○コラムや巻末の資料として、教材の内容を多面的・多角的に理解するための資料や日常生活に生かせる資料など、さまざまな内容がそろえられている。 ○児童の興味・関心を高め学習を広げる「まなびリンク」という二次元コードがあり、教材の解説や、参考になる書籍・ウェブサイトなどが見られるようになってきている。 ○これまでの道徳の授業において、研究・実践が積み重ねられてきた定番教材が各学年に多数掲載されている。 ○歴史や文化、スポーツなどさまざまな分野で活躍してきた人物の生き方にふれられるよう、4年生以上には「人物教材」が多数掲載されている。 ○学習後の「まなびチェック」「学習をふり返ろう」が新設されている。 ○学習者用のデジタル教科書あり、児童が自分でペンツールやふせんツールを使って、書き込みや入力ができるようになってきている。また、心情メーターで自分の考えや気持ちを視覚化させたり、友だちとの考えの違いに気づいたりすることもできる。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○誰もが見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮されている。 ○イラストを全面に使った教材で、児童自らが自由な考えや視点で問題を探し出し、イラストから学べるようになってきている。また、マンガ形式の教材を取り入れることで、児童の興味をひき、内容を理解しやすくしている。 ○低学年では、読み誤りがなく、言葉のまとまりがわかりやすくなるように分かち書きや文節改行されているが、2年生の9月末教材までとなっている。 </p>	
総 括	<p> ○デジタル教科書に力を入れて、指導者はもちろんのこと、学習する児童にも興味関心をもって、多く場面で活用できるように工夫されている。 ○同じ内容項目の教材は、時期を変えて学習し児童の成長が見取れるよう、配列を工夫している。 </p>	

種目【道徳】

書名 項目	道徳 きみがいちばんひかるとき	38 光村
内 容	<p>＜道徳科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年で扱う内容項目が、児童に楽しく分かりやすく伝わるように、自分の心を開く扉になぞらえ、シンプルな言葉とイラストで紹介されている。 ○その日の道徳の授業で、どんなことを考えるのかを一人一人がしっかりと自覚できるように、視覚的に工夫されている。また、1年間の学びの流れも見渡せるように「道徳の道案内」として紹介されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」や「情報モラル」等の現代的な課題には、ユニットで取り組むようにしている。また、児童が自分自身に引き寄せながら、興味関心をもって学ぶことのできる教材選びがされている。 ○SDG sを自分のこととして考えられるように、児童の発達段階に寄り添った課題を取り上げている。例えば、4年生で「海や陸の豊かさを守ること」、5年生で「地球温暖化」や「防災活動」、6年生で「貧困」や「平和」等、6年間でSDG sに示されている17の目標全てに触れられるように配慮されている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じた『考えるヒント』が示されている。例えば、「道徳で使う言葉」や「演じて考えよう」、「図を使って考えよう」等がある。考えを広げ深める具体的な手立てとして、分かりやすく示されている。 ○3年生以上の学年には、教材と主体的に向き合っていけるように、第二教材では「道徳の学び方」の例を示している。 ○巻末の折込に、1時間ごとの学びを簡単に記録できる「学びの記録」が用意されている。その授業でできたことを低・中学年はシールを貼り、高学年は一言感想を書きためることで学びを蓄積し、振り返えられるようになっている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年生以上の学年に、「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」が第一教材として紹介されている。ここでは、話し合いの基本を押さえさせるようにして、1年間を通して協働的な学びの場を保證できるようにしている。 ○各学年にある「心を通わそう」の活動に取り組むことで、互いを認め合零雰囲気づくりを大切にし、信頼して話し合える関係づくりができるように考えられている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○3～6年学年の巻末には、関連する教材の学習と結び付けて扱うことで、さらに学習効果が高まるような資料が掲載されている。例えば、「学びの道具箱」や「日本に伝わる○○」がある。多くの事例が紹介されている。 ○QRコードは、朗読を聞くための音声だけではなく、参考資料として写真や画像、さまざまな種類の動画なども見るができるようになっていて、児童の興味を引いたり学び助けたりしてくれるコンテンツが多数ある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○目次や吹き出しには、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインを意識した書体（UDフォントマーク）を使用している。本文には、書き文字と差異の生じない教科書体を使用している。 ○全学年において、挿絵に登場した人物名を記載して判別しやすくしている。 ○低学年では、単語や文節の途中で改行しないようにしたり、文節分ち書きにして見やすいようにしたりしている。 ○視覚的に児童の興味関心を喚起する漫画形式の教材や、見開き1枚絵などから考える教材が取り入れられている。 ○巻頭の詩が見開き1ページあり、1年生でも長めの詩が載っている。国語の教科書のような入り方である。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1時間ごとの振り返りを蓄積させていき、学年が終わる時にどんなことが頑張り考えたのか等の成長を確認できるようになっている。 ○この教科書が目指したその学年の姿に、現代的な課題との関わりや他教科・領域との関わりも示している。目次にあるこの本で使われている印にも載せてあり、児童にも分かりやすい。 	

種目【道徳】

書名 項目	小学道徳 生きる力 道徳ノート	116 頁
内 容	<p> <道徳科の目標に関わる工夫> ○内容項目を児童向けの言葉（キーワード）で掲載し、学習の手がかりを示している。 ○三つの発問（「導入」、「中心発問」、「今後の生活で学びを生かす発問例」）で学びの流れを作り、子どもたちが学習に取り組みやすい紙面構成になっている。 ○巻頭のオリエンテーションでは、道徳科がどのようなことを学ぶ教科なのか、わかりやすく示している。 </p> <p> <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○いじめ防止ユニット（いじめを「間接的に扱った教材」、「直接的に扱った教材」「いじめ防止コラム」）を構成して年間3回、設定している。 ○現代的課題（福祉、平和・人権教育、キャリア教育、防災教育、他さまざまなテーマの教材）を掲載し、よりよい社会について考えられるようにしている。 ○情報モラルへの対応として、情報モラルの教材とコラムを組み合わせた資料を全学年に掲載している。 </p> <p> <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○自己肯定感の涵養に関わって「個性の伸長」と「感謝」のテーマを重視し、深く考えられる教材を増やしている。 ○「見つけた！ここにも道徳」、「SDGsで考えよう」のコラムでは、道徳科の授業で学習したことを「自分ごと」として考えを深めることができるようにしている。 ○別冊の「道徳ノート」は、教材ごとに書き込みができ、児童が自分を見つめたり、成長を実感できたりすることができるようにしている。 </p> <p> <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○問題解決的な学習や体験的な学習の手法、多様な実践活動を生かした学習の要素を取り入れた子どもたちの思考を深める手立てとなる参考例を、具体的に例示している。 ○「心のベンチ」のページで、人間関係づくりや地域を語る等の体験を通して、道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考えることができるようにしている </p>	
資 料	<p> ○読み物教材は、主人公や主な登場人物を絵で表している。リード文を掲載し内容を分かりやすく示している。 ○教科書QRコンテンツがあり、教材理解を助けている。 ○挿絵は温かみのある絵になっているが、自分ごととして捉える主旨のコラムや命、自然は写真を多く採用している。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○教材本文に「UDデジタル教科書体」を使用し、行間を広げている。 ○注釈、ふりがなにも読みやすいフォントを使用している。 ○当該学年以上の漢字にふりがなをつけている ○4つの視点をカラーユニバーサルデザインで示している。 </p>	
総 括	<p> ○教材ごとにリード文、主人公や主な登場人物が初めに表されていて内容の大体がつかみやすい。また、3つの発問「導入」、「中心発問」、「日常生活への繋がり」で学びの流れを示し、児童が主体的に学べるように工夫されている。 ○いじめ防止ユニットを組んで、重点的に構成されている。 ○デジタルコンテンツが充実していて、教材理解を助けている。 ○別冊の道徳ノートは紙とデジタルの使い分けができ、さまざまな授業展開に対応できる形式になっている。 </p>	

種目【道徳】

書名 項目	小学道徳 ゆたかな心	208 
内 容	<p> <道徳科の目標に関わる工夫> ○巻頭にオリエンテーションのページがあり、道徳の時間の学び方について掲載し、道徳の時間に考えたことを生活の中でも考えることが大切なことを示している。 ○各教材の冒頭に問題意識をもつための問い、本文の展開の発問では、2種類の発問を用意して思考の拡充を促し、末尾に学んだことを日常生活に広げるための提案を示している。 ○巻末に学習の記録を積み重ねる「学びの足あと」を配置し、子どもが自らの成長を実感し、新たな課題や目標を見つけて取り組めるようにしている。 </p> <p> <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○現代的課題（生命の尊重、自然、人との共生、情報モラル、へこんでも立ち直る、安全、健康、キャリア教育）を自分ごととして考えられる教材を多く掲載している。 ○全学年に情報モラルのコラムを設けて、身近な話題を通し情報モラルが学べるようにしている。 ○全学年にレジリエンスコラム（へこんでも立ち直る）を設けて、「心の力」を考え、自己肯定感を高める工夫をしている。 </p> <p> <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○「いじめ」、「命」、「学年独自主題（人間関係を主とする）」を重点主題として取り上げている。重点目標を複数の時間をかけ考えたり、また、連続的に扱ったりすることで多面的・多角的に捉え、深く考えられるように構成している。 ○重点主題は各学年の発達段階に応じ、低学年から高学年に向かい考えが深まるように系統性を持たせている。 ○発達段階に応じた思考ツールを掲載し紹介している。 </p> <p> <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○クラスや学校生活などを舞台にした、子どもが自分ごととして考えやすい教材、長く読み継がれてきた教材、人物の苦悩や努力から考える実話の教材など、生き方に迫る教材を選定している。 ○漫画や迫力のある写真、ダイナミックな1枚絵など多様な表現方法を取り入れて、親しみやすい教材にして議論しやすくなるように工夫している。 ○教材理解をサポートする写真や動画、参考 Web サイト、教材に登場する人物のメッセージなどを視聴することで考えを深め、議論しやすくなるように工夫をしている。 </p>	
資 料	<p> ○各教材で内容項目に関するめあてを掲載し、導入、展開、終末、日常生活に繋がる質問が示されている。 ○教材付随のコラムでは、授業の学びを生かし、深い学びに向かう工夫をしている。 ○教科書はAB版を採用し、軽量化を図っている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○カラーユニバーサルデザインで内容項目の視点を4種類のアイコンで表現している。目次には、重点項目やアイコンの説明を分かりやすく掲載している。 ○書体は見やすいユニバーサルデザインフォントを使用している。低学年は総ふりがなに、高学年からは当該学年以上の漢字にふりがなをつけている。 </p>	
総 括	<p> ○巻頭に道徳の進め方、考えを整理する思考ツールの紹介、ノートのとめ方などが例示しており、道徳の学び方を分かりやすく示している。 ○各教材に、導入、展開の発問、日常生活へ繋がる発問が示してあり、主体的に学べる紙面構成になっている。 </p>	

種目【道徳】

書名 項目	みんなの道徳	224 学研
内 容	<p> <道徳科の目標に関わる工夫> ○教材に主題名を記載せず、キーフレーズに留めることで、さまざまな授業展開に柔軟に対応し、児童のいろいろな考えを引き出せるように工夫している。 ○巻頭にオリエンテーションのページがあり、道徳の時間の学び方について掲載している。「つながる私 広がる私」のページでは、自分のことを記述し、道徳で学んだことを生かす大切さを意識づけることができるようになっている。 ○各教材の冒頭に、4つの視点、主題につながるキーフレーズを示し関心を持たせる工夫がされている。「考えよう」では中心発問や今後の生活に繋がる発問を示し、子どもたちが学習に取り組みやすい紙面構成になっている。 </p> <p> <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○現代的課題（命、多様性、キャリア教育、情報モラル、いじめ防止など）を自分ごととして考えられる教材を多く掲載している。 ○「共に生きる」を扱った教材は学年で系統性を持たせ、発達段階に考慮した教材を選定している。低学年では「相手に優しく接する」から始まり、高学年では「いじめ問題」を考えられるようにしている。 </p> <p> <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○「命」、「共に生きる」、「未来に向かって」を重点テーマとして取り上げている。各学年、重点テーマを扱う際は、連続で2教材・思考ボックスをセットにして取り組み、深く考えられるようにしている。 ○「深めよう」、「心のパスポート」の思考するボックス配置し、児童が多面的・多角的に考えを深めることができるようにしている。 </p> <p> <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○カラーユニバーサルデザインで表した4つの視点、教材に興味関心を持たせるキーフレーズを示し主題名の扱いに配慮して、児童が自ら考えることができるような紙面構成にしている。 ○今を生きる人物や記憶に新しい出来事などを教材に選定し、児童が意欲的に取り組み、議論できる教材を多く掲載している。 ○教材理解をサポートする写真や動画、ワークシートなどが収録してあるデジタルコンテンツ </p>	
資 料	<p> ○各教材でテーマに関するキーフレーズを示し、児童の柔軟な発想を促している。展開発問、日常生活に繋がる質問が示されている。 ○実際の人物に関わる資料には、大きな写真や人物の日常の様子の写真などを多用している。 ○教科書はAB版を採用し、軽量化を図っている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○カラーユニバーサルデザインで内容項目の視点を4種類のアイコンで表現している。目次には、重点項目やアイコンの説明を分かりやすく掲載している。 ○当該学年以上の漢字にふりがなをつけている。難解な語句や必要な情報を頭注で解説している。 </p>	
総 括	<p> ○主題名を設定せず、キーフレーズに留めることで、児童が自ら課題を出し話し合えることを重視している。 ○4つの視点の目次ページがあり、内容項目ごとの教材が分かりやすく示されている。 ○絵や写真が充実している。実際に活躍した人物や偉業を成し遂げた人物の様子がよく分かり、興味・関心をもって取り組むことができる。 ○「深めよう」や「心のパスポート」のページは、日常生活を意識させ深く考えることができる工夫がしてある。 </p>	